

小規模企業景気動向調査 [2025年7月期調査]

～天候等の影響で業種間・業者間格差が見られるも、一定の改善を見せた小規模企業景況～

<産業全体>

7月期の産業全体の景況は、採算 DI が小幅に上昇、売上額・資金繰り・業況 DI はわずかに上昇した。物価高による節約志向は依然として強いが、猛暑や日米間の関税交渉合意が消費を刺激した一因と考えられる。一部地域や業種では猛暑が悪材料となったが、耐久消費財をはじめとする小売業が産業全体をけん引し、前月比では4か月ぶりに全 DI が上昇した。

	DI	6月	7月	前月比	前年同 月比
売上額		2.7	4.4	1.7	▲ 0.8
採算	▲	20.0	▲ 17.1	2.9	▲ 1.0
資金繰り	▲	15.4	▲ 14.7	0.7	▲ 1.6
業況	▲	15.5	▲ 14.2	1.3	▲ 3.5

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>猛暑により一部業況改善も、慢性的な人手不足が課題の製造業

製造業は、採算・資金繰り・業況 DI がわずかに上昇し、売上額 DI は不変であった。食料品関連は、天候の好転や観光需要の高まりから安定的に推移。繊維関連は、大手企業との価格競争や慢性的な人手不足に苦しみも、猛暑や季節需要により全 DI が上昇。機械・金属関連は外需鈍化や原材料高の影響で慎重な姿勢が続くが、米国の関税措置に関する日米協議の合意内容を受け、売上や採算の好転を示す声も一部で見られた。

	DI	6月	7月	前月比	前年同 月比
売上額		1.7	1.3	▲ 0.4	▲ 3.2
採算	▲	23.4	▲ 21.9	1.5	▲ 5.0
資金繰り	▲	18.2	▲ 17.0	1.2	▲ 2.7
業況	▲	20.4	▲ 19.7	0.7	▲ 7.2

<建設業>民間需要の増加により大幅な採算好転を見せた建設業

建設業は、採算 DI が大幅に上昇、売上額・業況 DI は小幅に上昇、資金繰り DI はわずかに低下した。見積り依頼や相談件数の増加に加え、土木・外構工事を中心に受注が堅調に推移。一方で、猛暑による工期の遅れなどの影響で資金繰りはわずかに悪化しており、人手不足や資材高騰などの構造的課題は依然として残る。一部で新築需要や公共工事の減少による懸念の声も散見されるため、今後の動向に注視が必要である。

	DI	6月	7月	前月比	前年同 月比
売上額		6.1	7.2	1.1	▲ 4.8
採算	▲	20.4	▲ 15.3	5.1	0.5
資金繰り	▲	14.7	▲ 15.8	▲ 1.1	▲ 3.8
業況	▲	13.3	▲ 11.4	1.9	▲ 2.1

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>猛暑・季節要因と生活需要により、回復基調の小売業

小売業は、全 DI が小幅に上昇した。衣料品関連では、仕入れ価格の上昇や外出控えに悩むも、夏物や猛暑対策商品の売れ筋が好調。食料品関連では、米や卵が価格の高止まりを見せるも、生活必需品としての需要から堅調に推移。耐久消費財関連では、猛暑に伴い夏物家電が好調。修理・設置依頼も増加し、大幅な売上額 DI 上昇に繋がった。一方で、人手不足による失注等の課題もあり、対応が急がれる。

	DI	6月	7月	前月比	前年同 月比
売上額	▲	0.6	3.7	4.3	8.0
採算	▲	23.6	▲ 19.3	4.3	2.2
資金繰り	▲	19.2	▲ 15.0	4.2	3.2
業況	▲	20.3	▲ 17.6	2.7	▲ 0.6

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>採算確保に苦慮するも、工夫が光るサービス業

サービス業は、売上額・採算 DI がわずかに上昇、資金繰り DI はわずかに低下、業況 DI は不変であった。旅館業は、夏休みや観光需要の増加が業況改善に寄与。クリーニング業では、専門サービスやキャッシュレス決済を導入し、顧客層の拡大を図る動きが一部事業所で見られた。理・美容業では、猛暑による光熱費の増加や来店頻度の低下といった厳しい経営環境の中、販促活動の強化やサービス拡充を通じて集客を図る事業所も確認された。

	DI	6月	7月	前月比	前年同 月比
売上額		3.8	5.2	1.4	▲ 3.3
採算	▲	12.5	▲ 11.9	0.6	▲ 1.6
資金繰り	▲	9.7	▲ 11.0	▲ 1.3	▲ 2.8
業況	▲	8.1	▲ 8.3	▲ 0.2	▲ 4.4

調査概要

・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数: 241/回答率 79.5%)

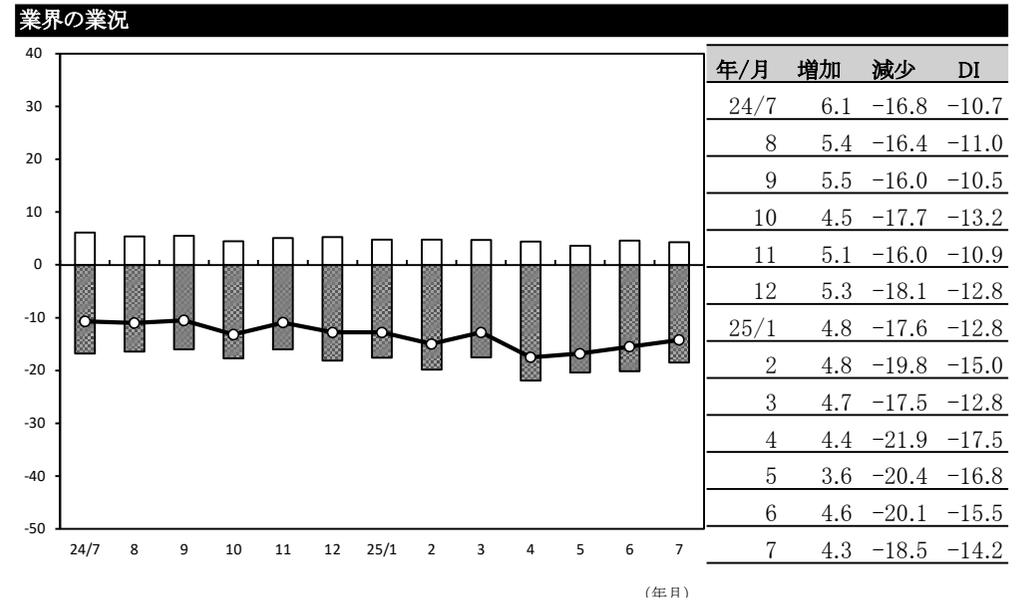
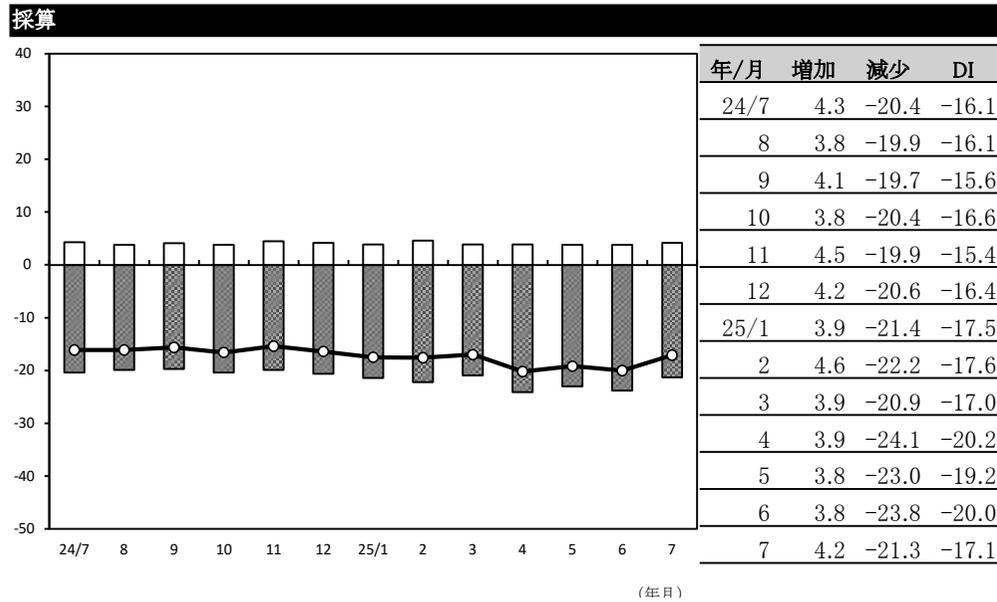
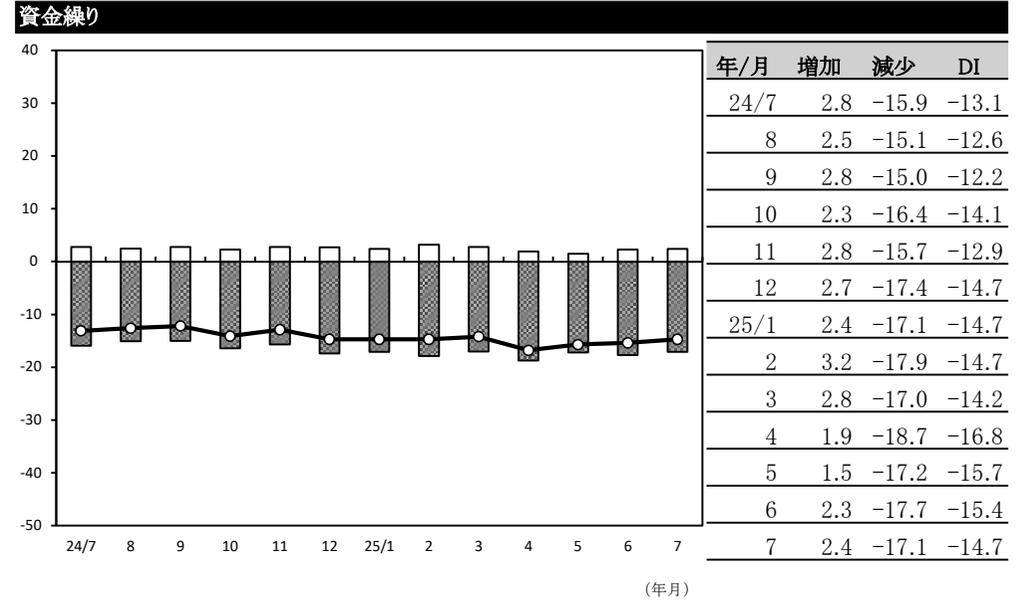
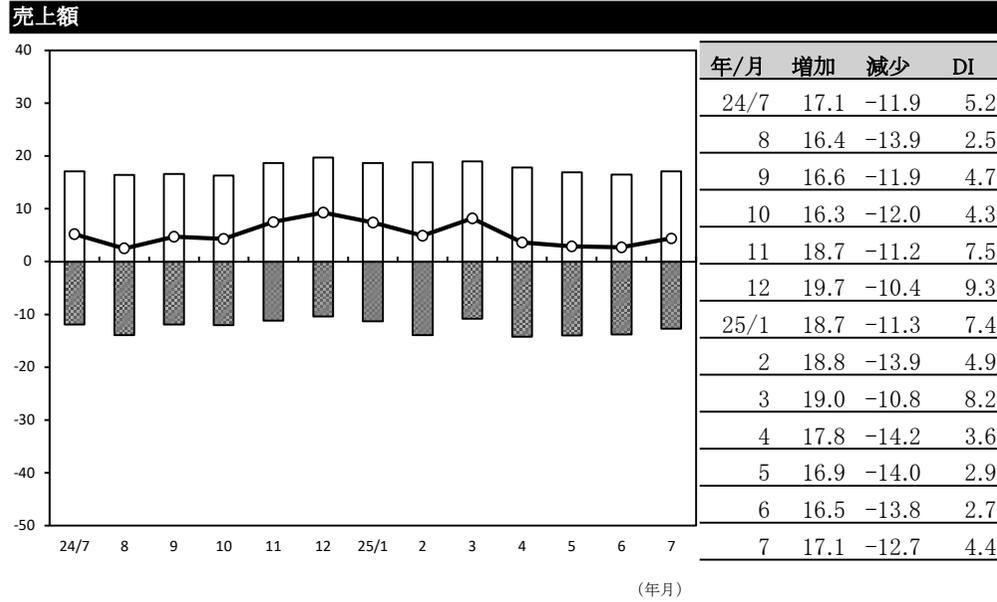
・調査時点: 2025年7月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

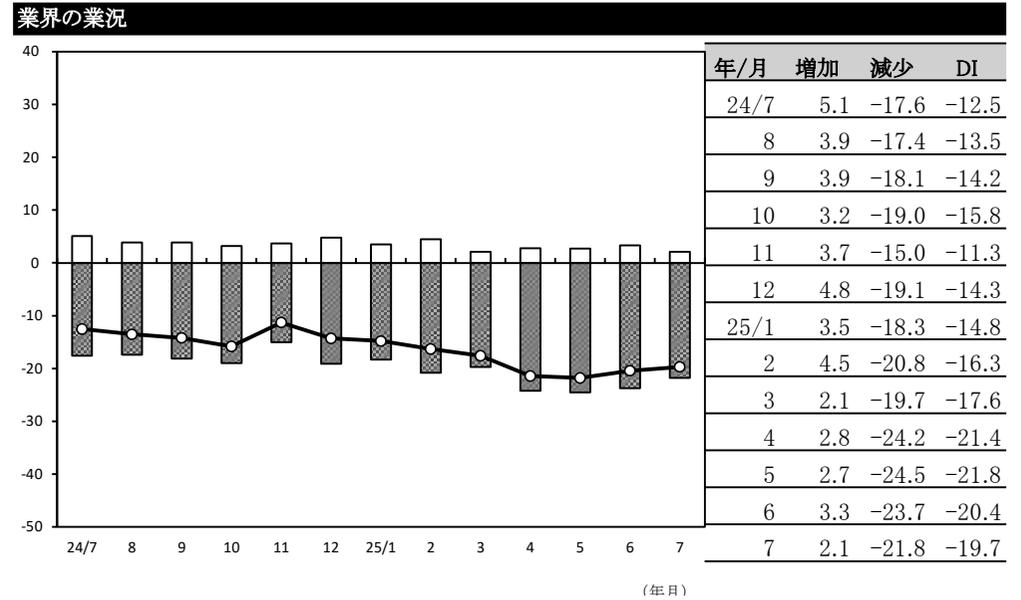
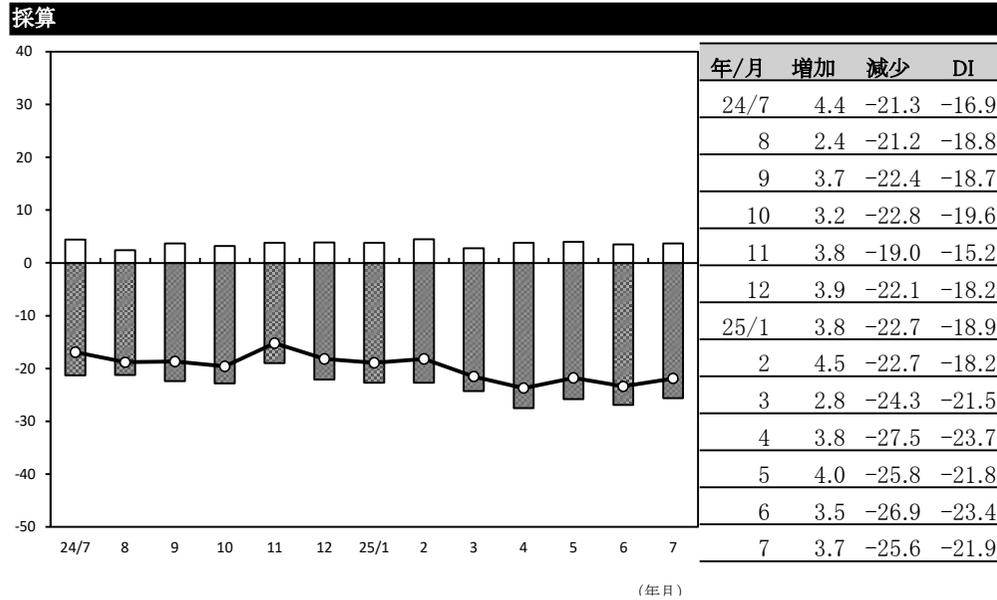
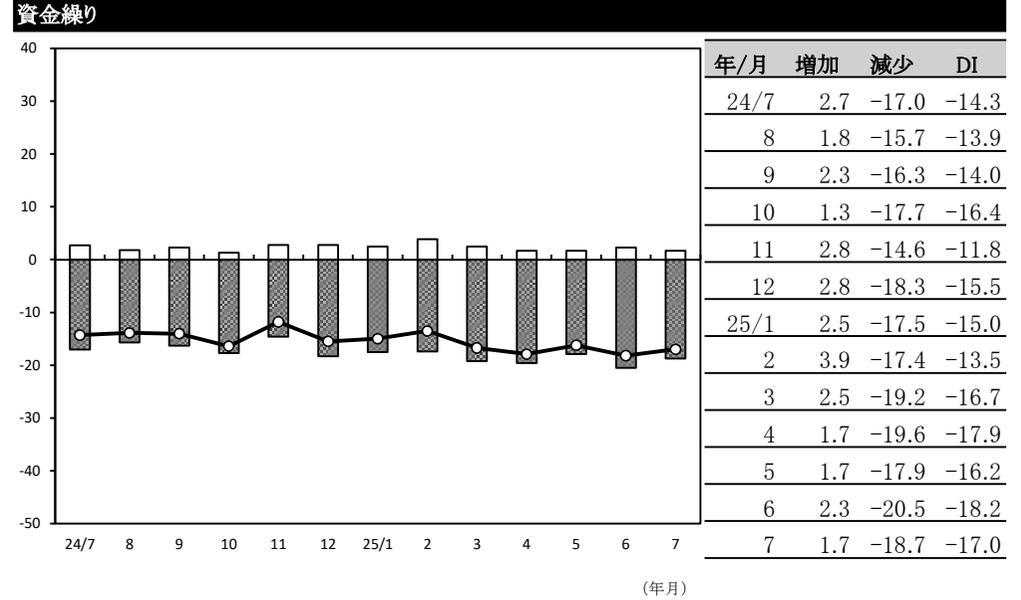
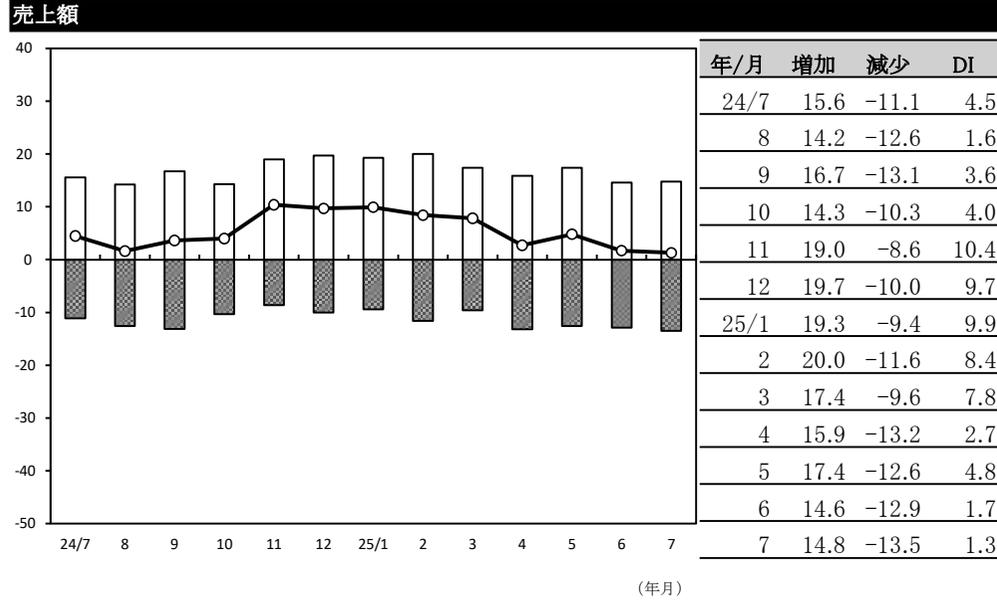
※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(2025年7月期)

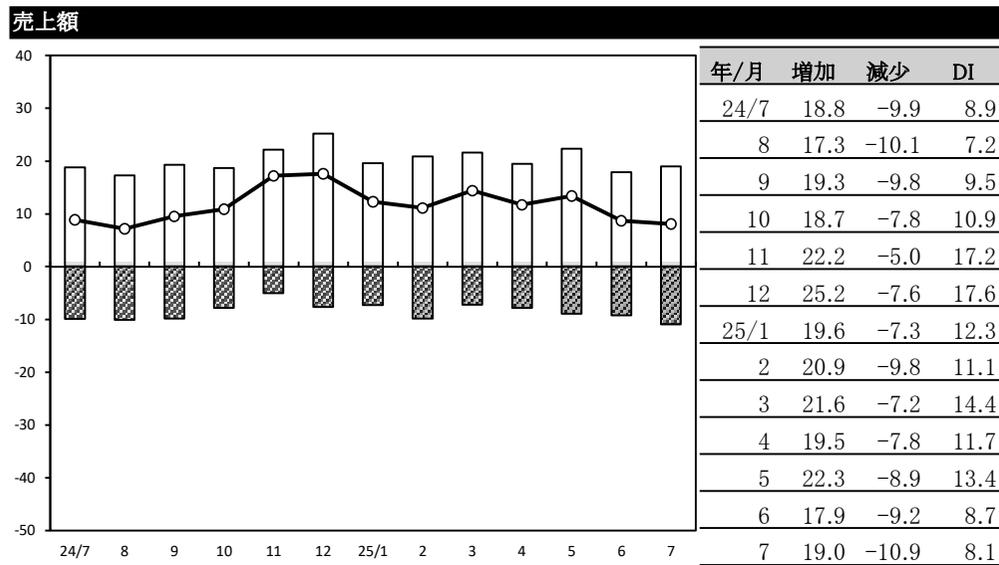
産業全体(前年同月比)



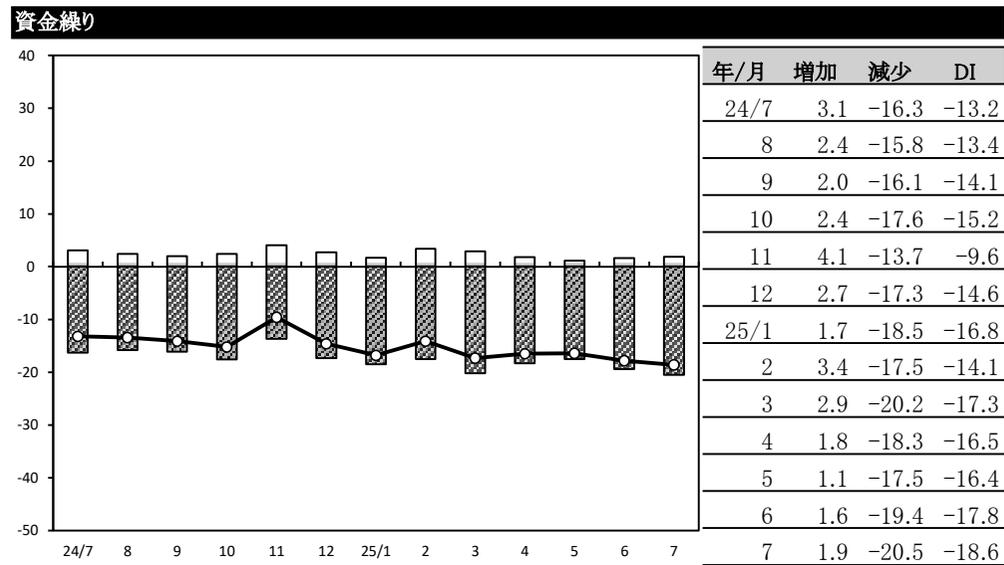
製造業(前年同月比)



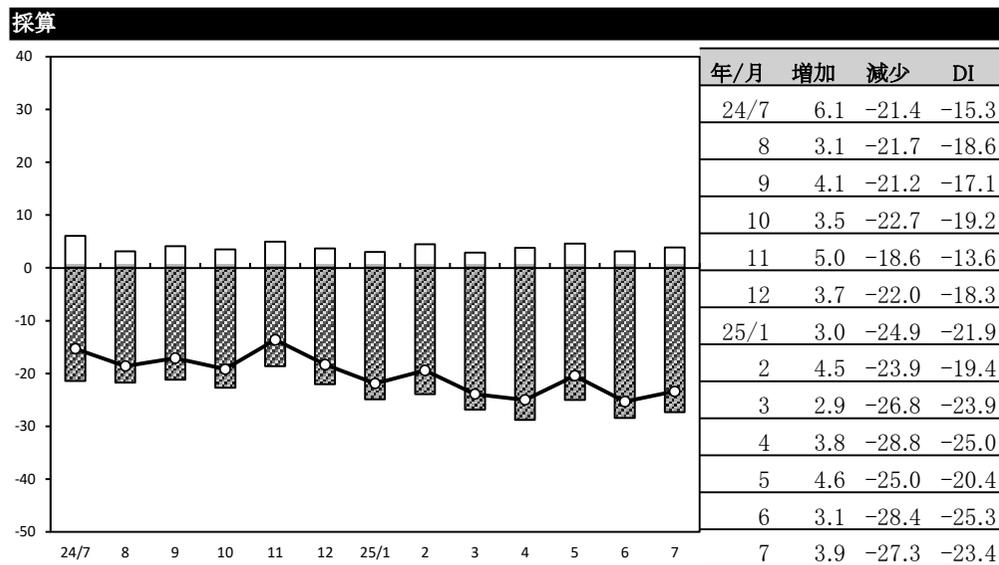
製 造 業 【食料品】（前年同月比）



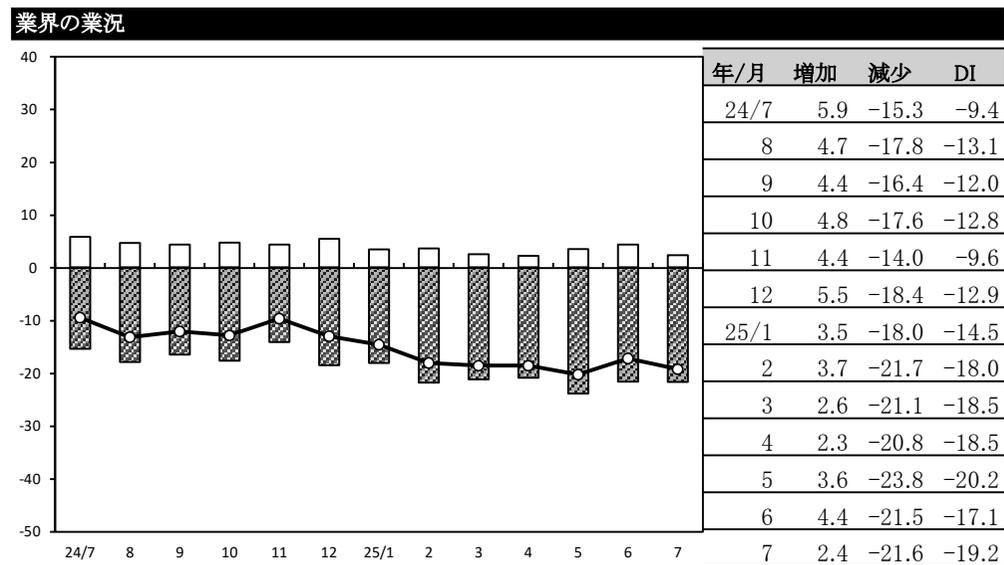
(年月)



(年月)

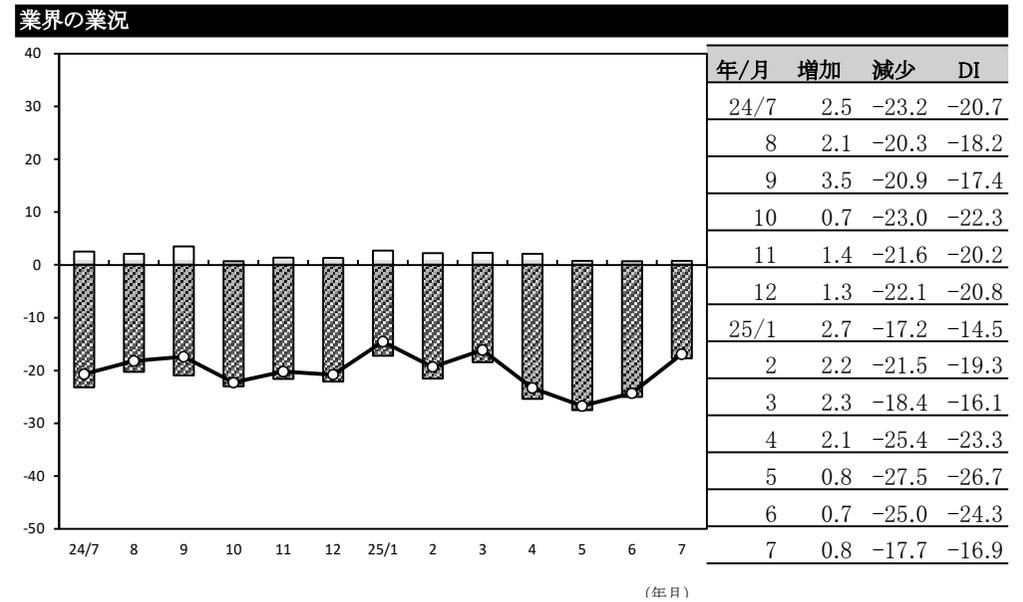
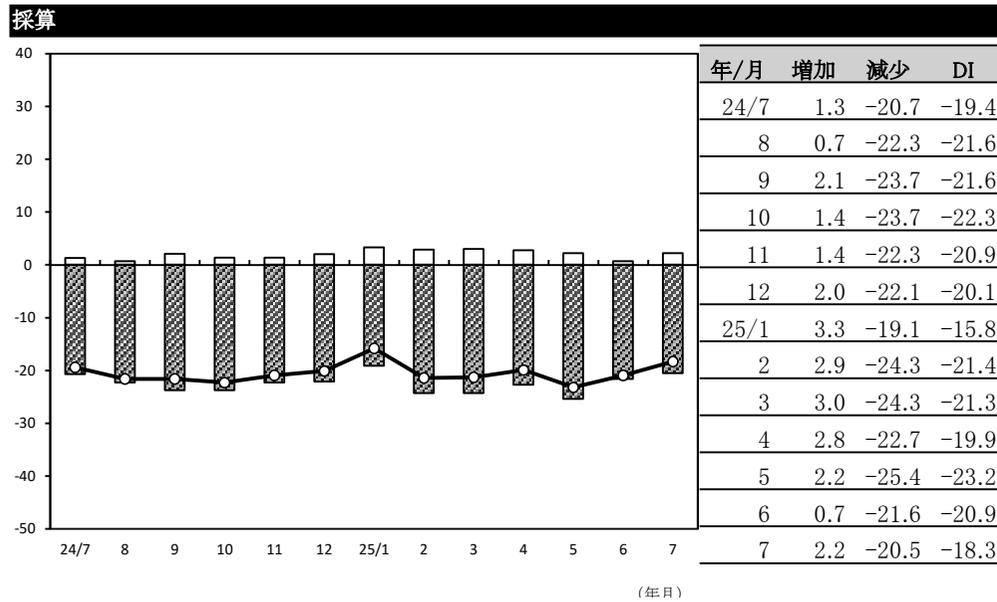
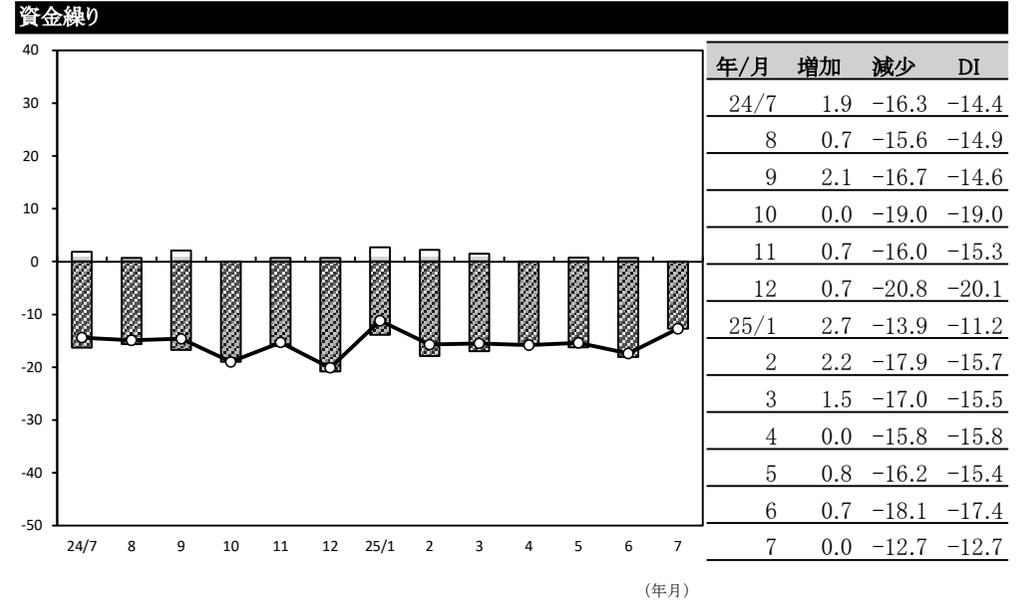
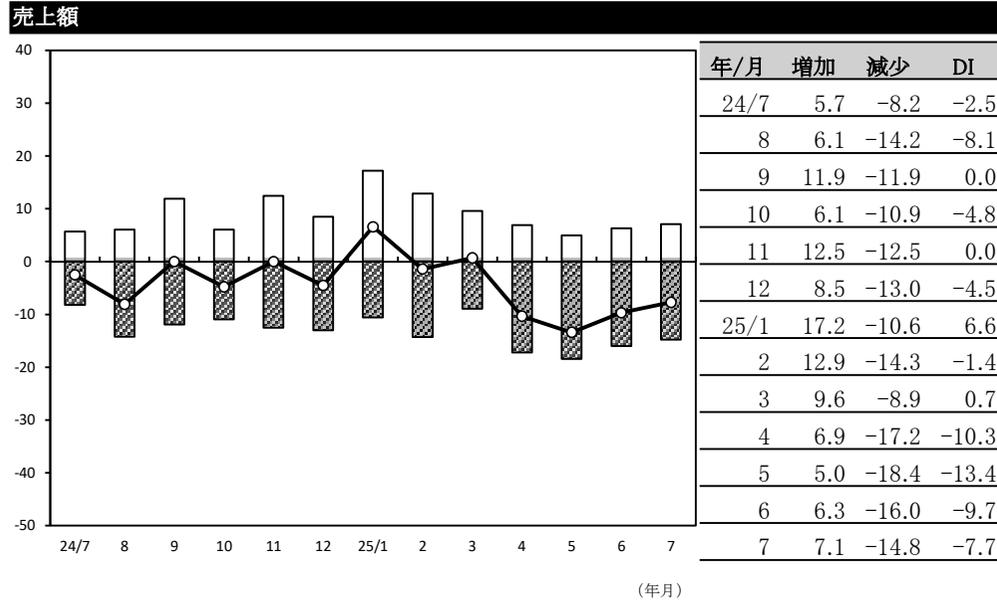


(年月)

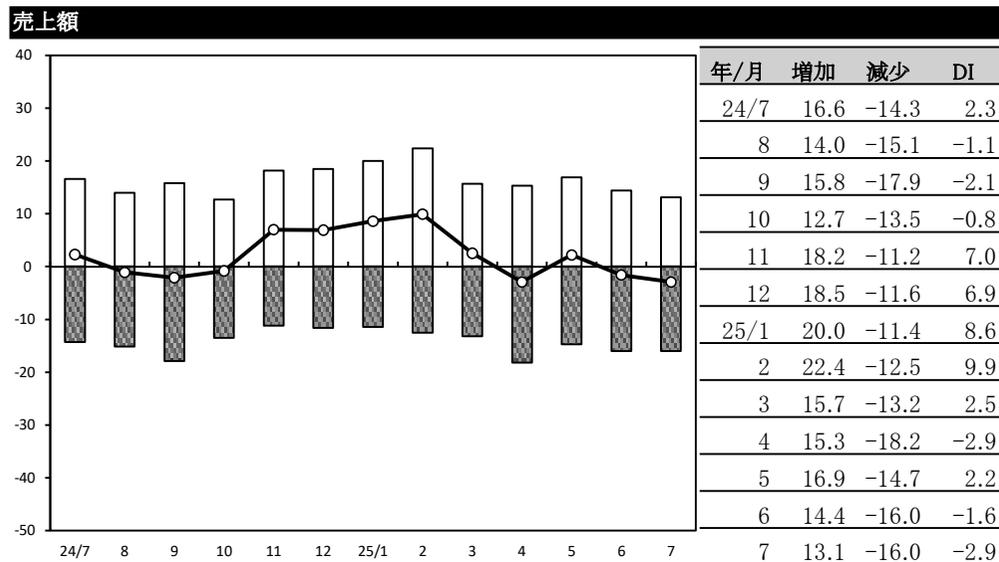


(年月)

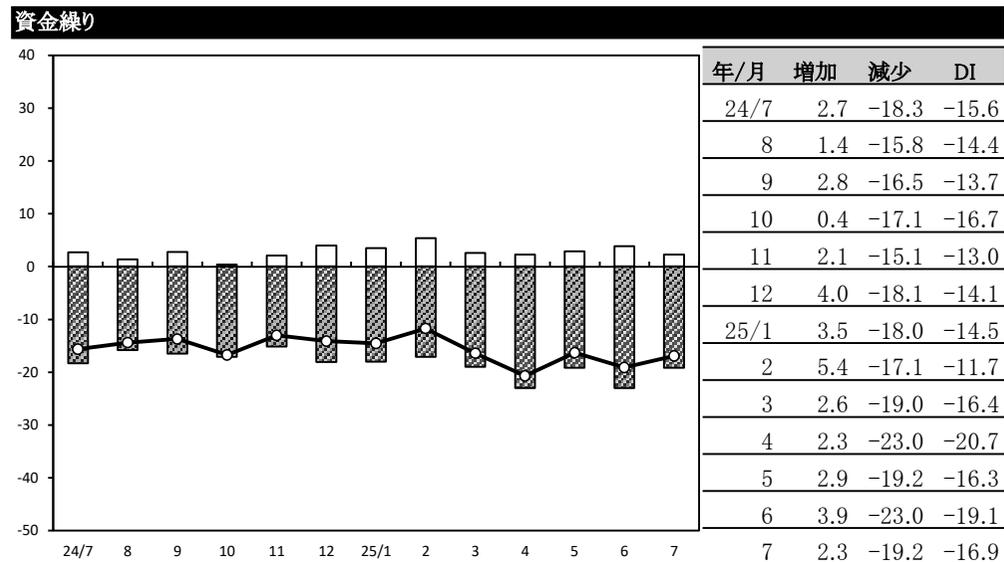
製 造 業【繊維】（前年同月比）



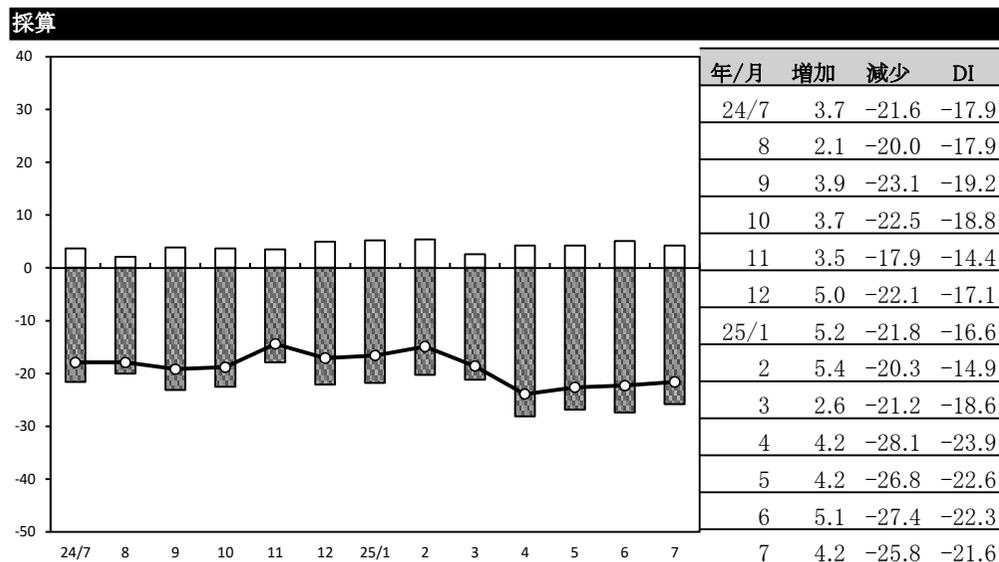
製 造 業【機械・金属】（前年同月比）



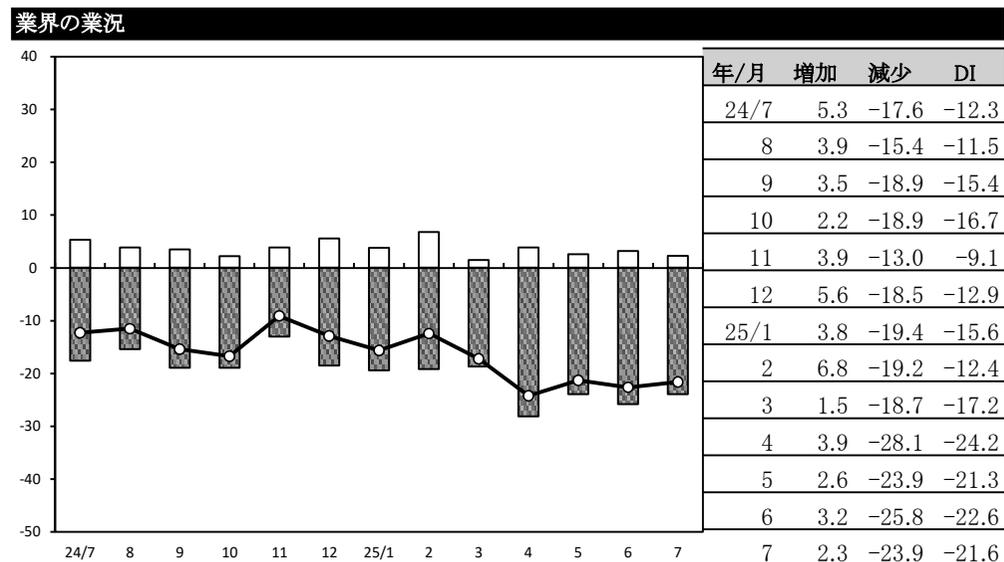
(年月)



(年月)

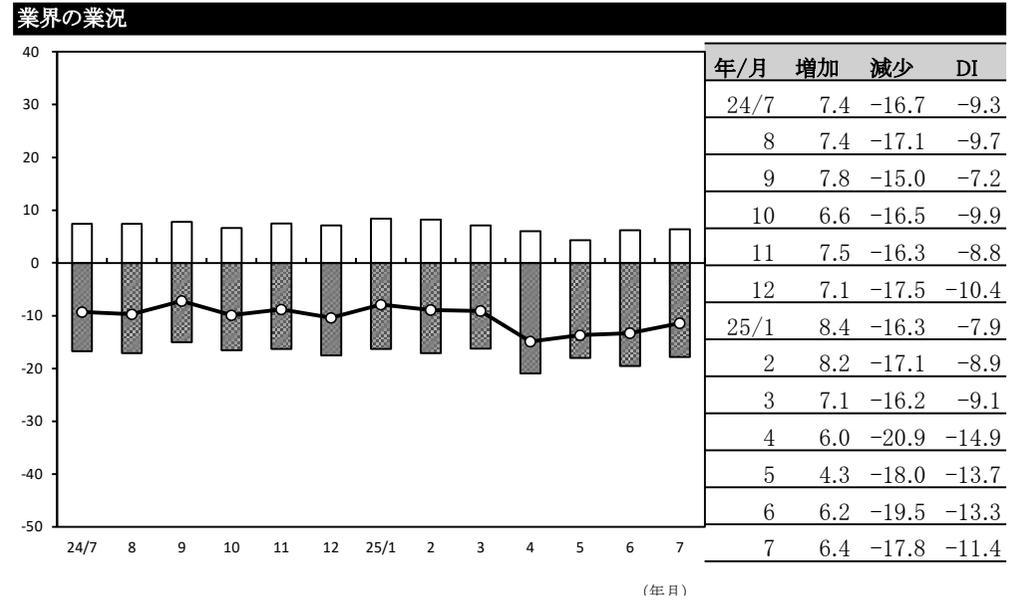
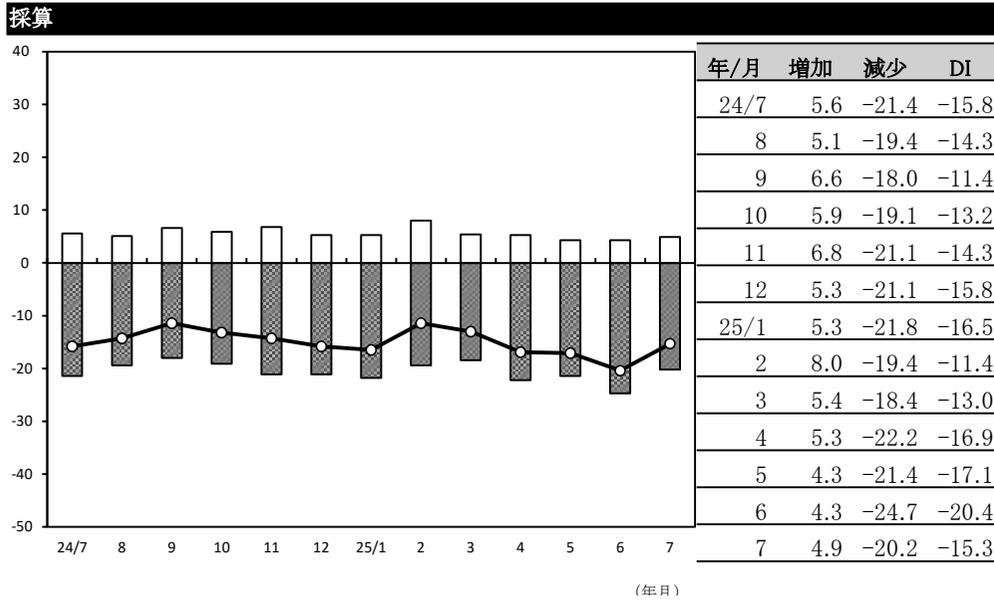
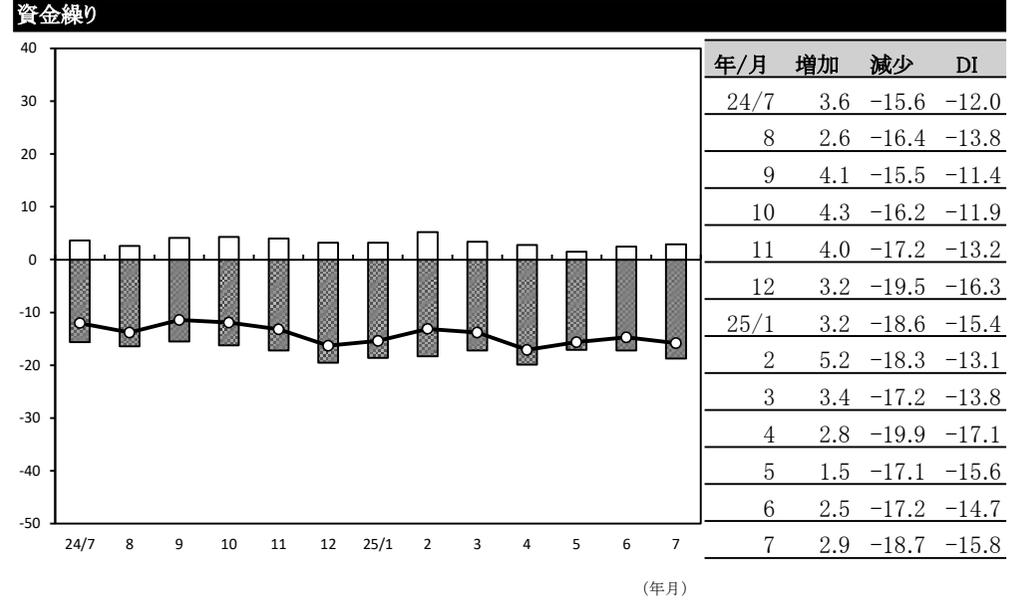
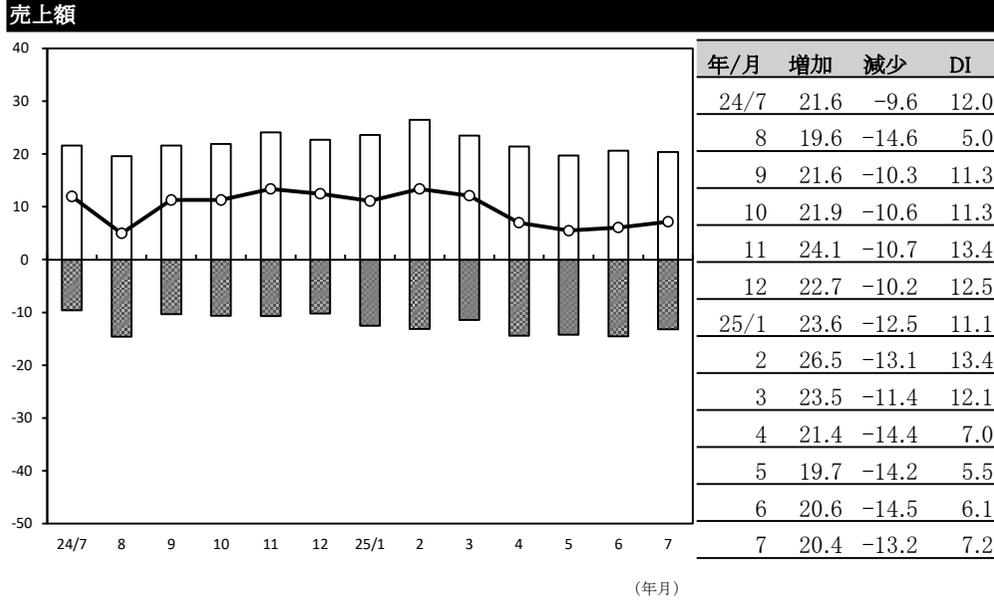


(年月)

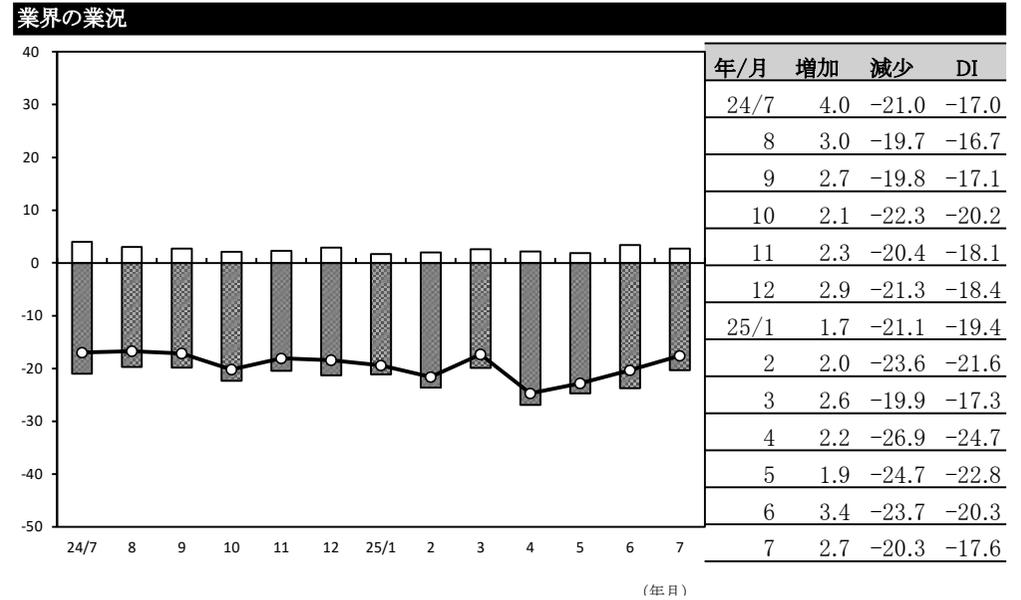
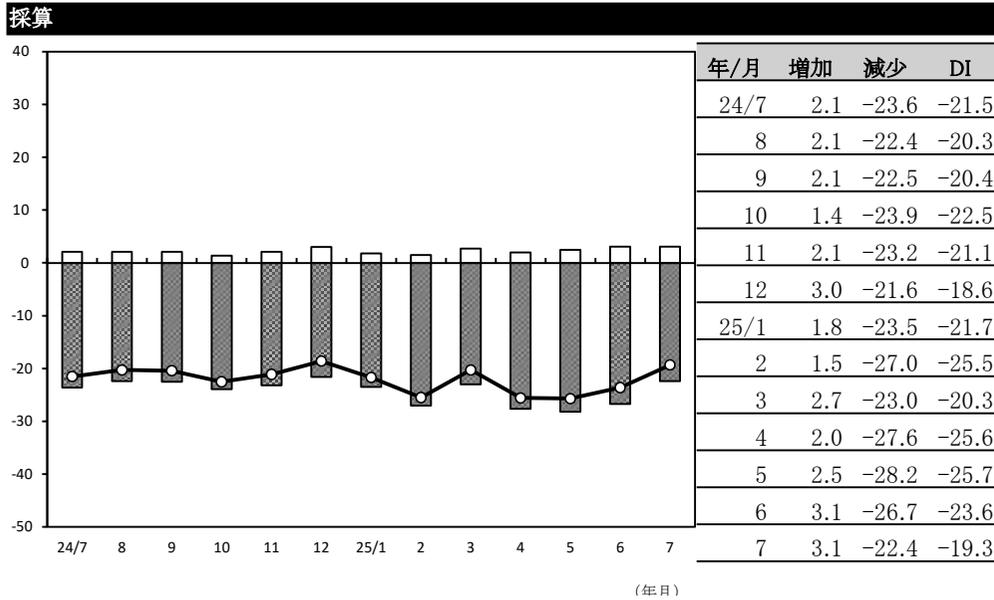
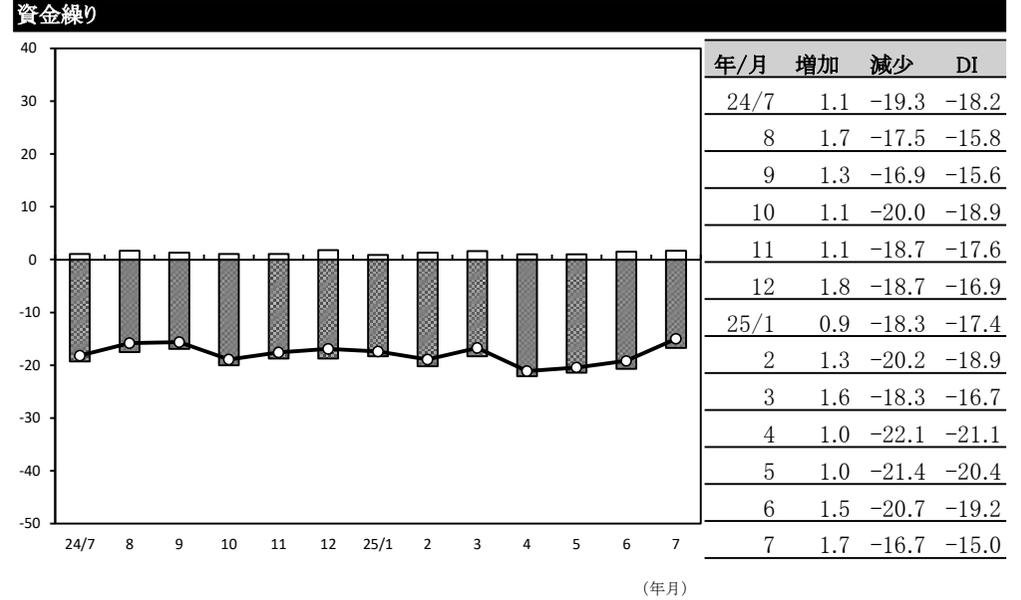
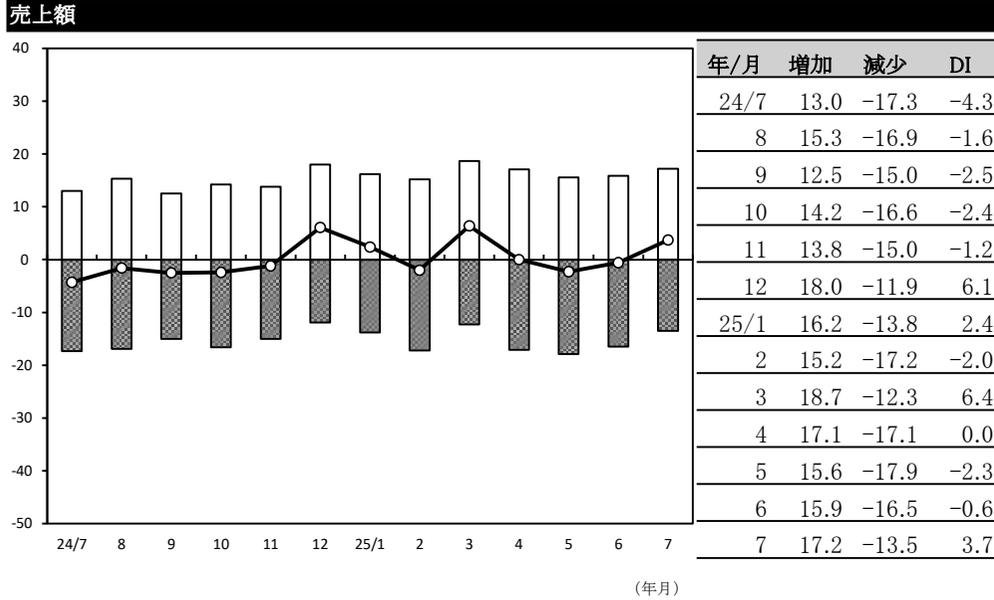


(年月)

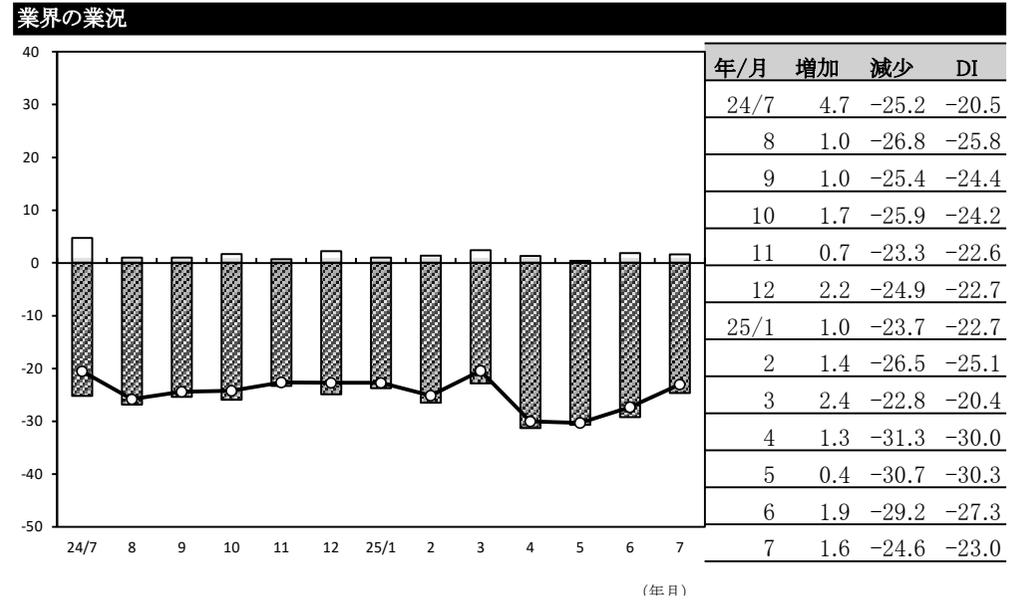
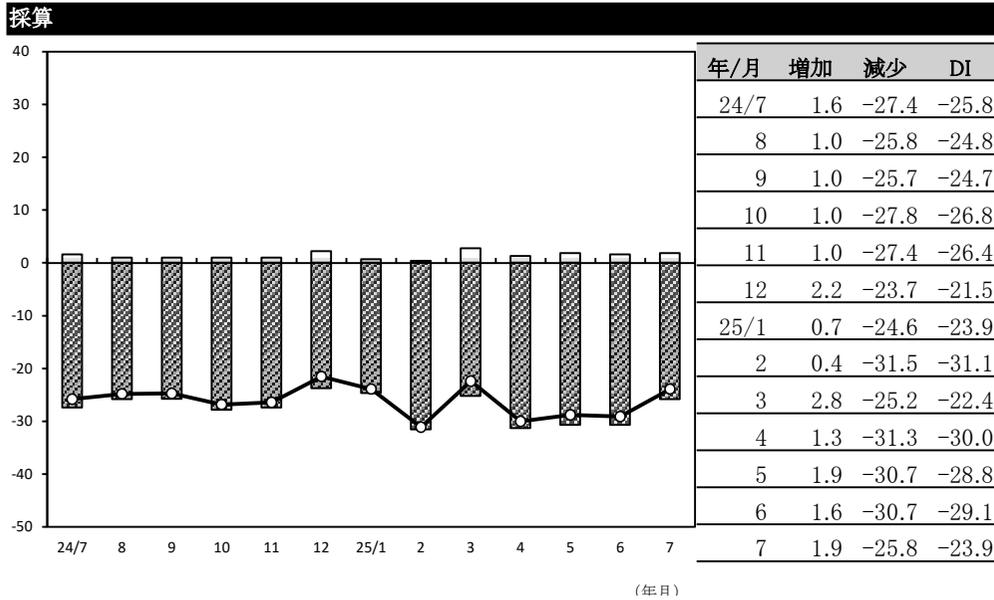
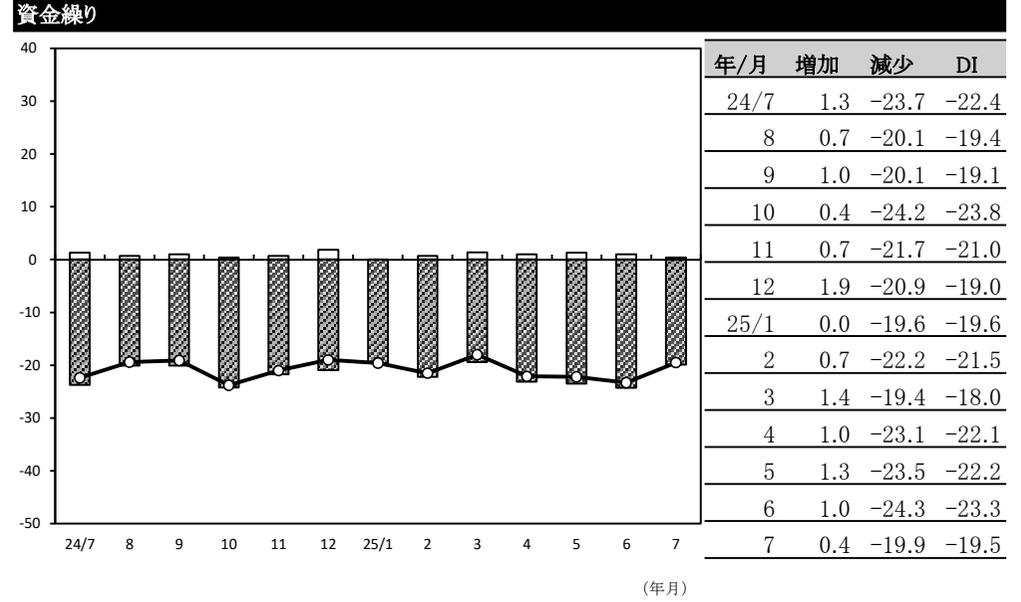
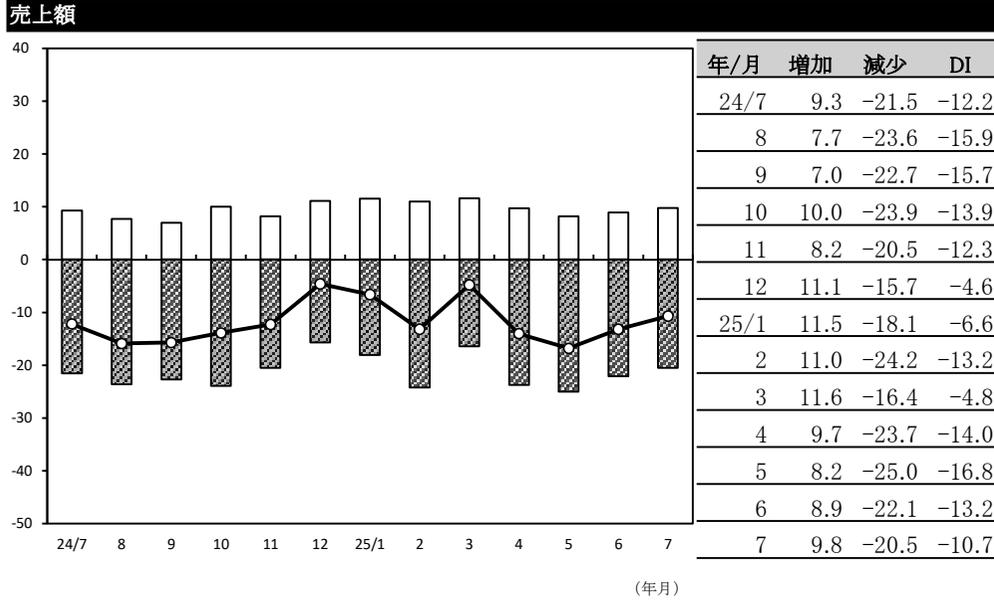
建設業(前年同月比)



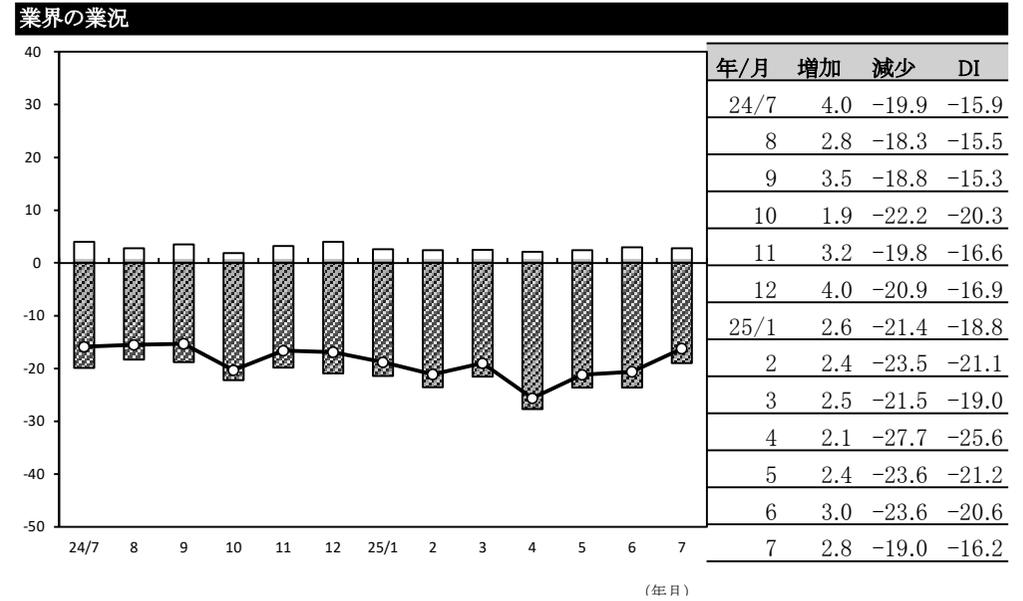
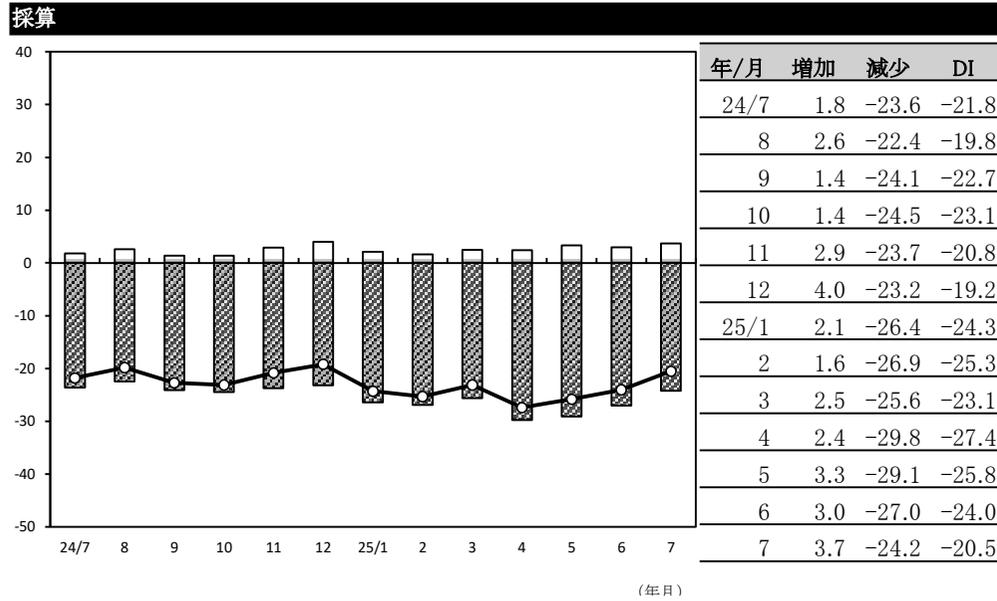
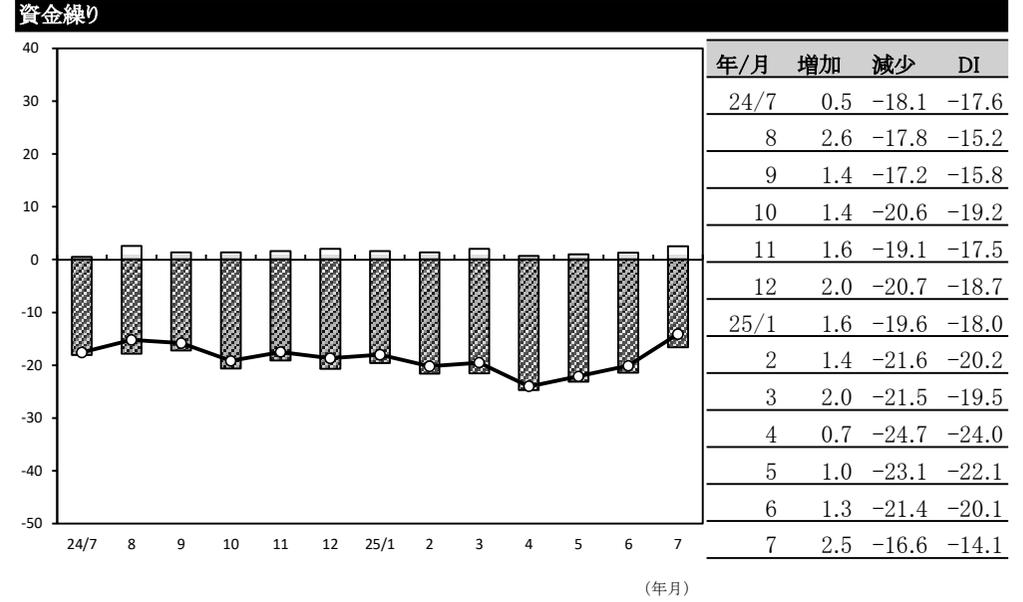
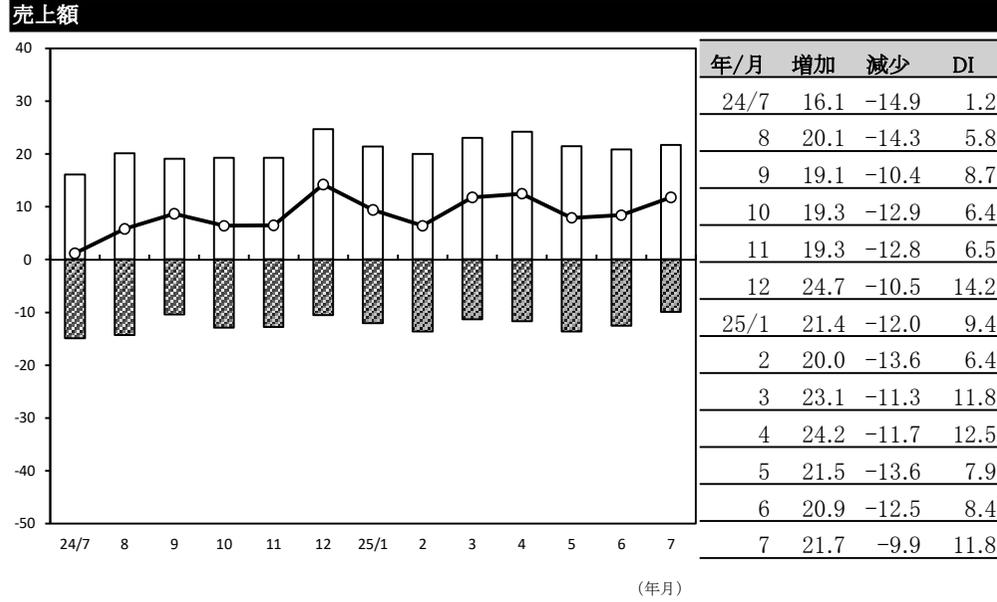
小 売 業(前年同月比)



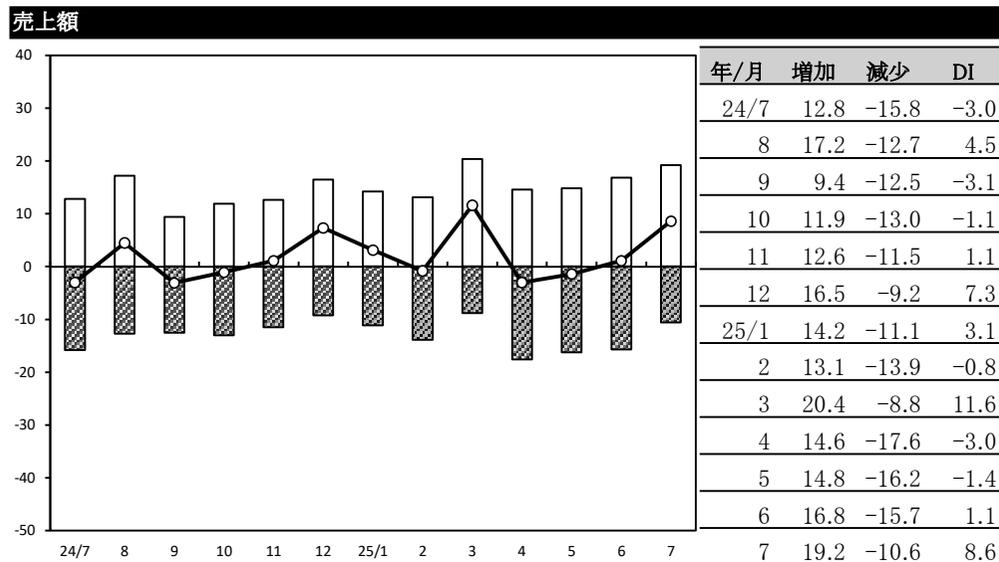
小売業【衣料品】（前年同月比）



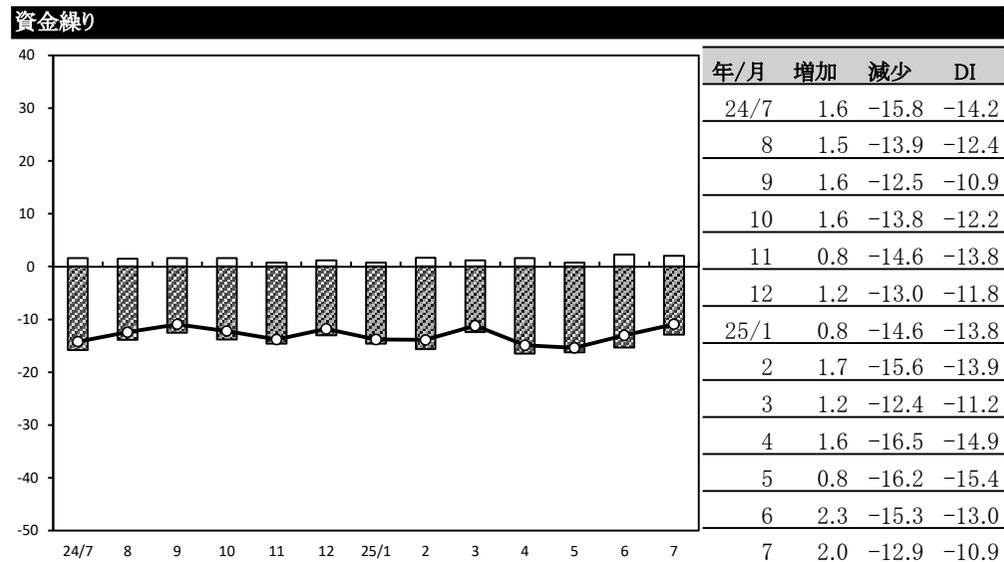
小売業【食料品】（前年同月比）



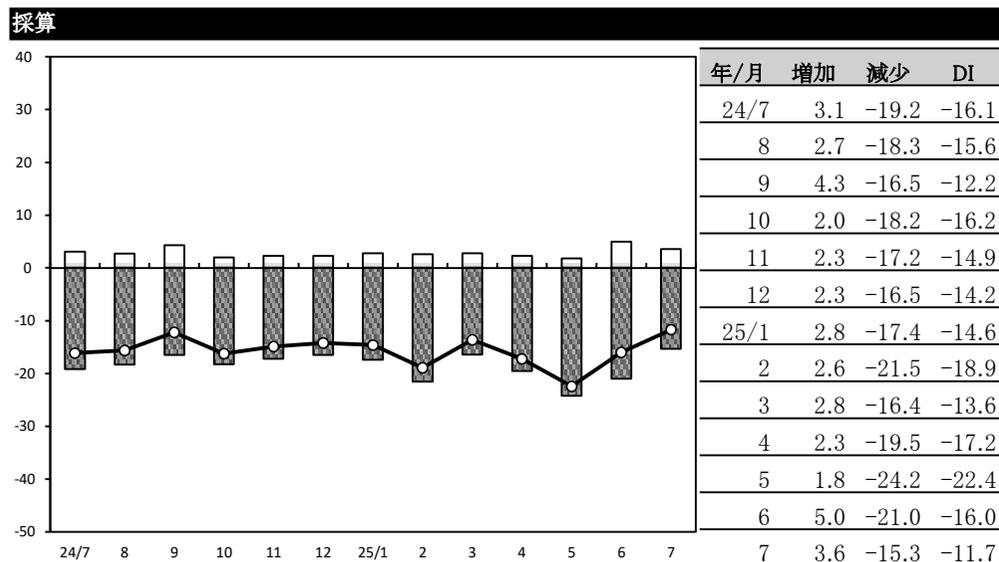
小 売 業 【耐久消費財】（前年同月比）



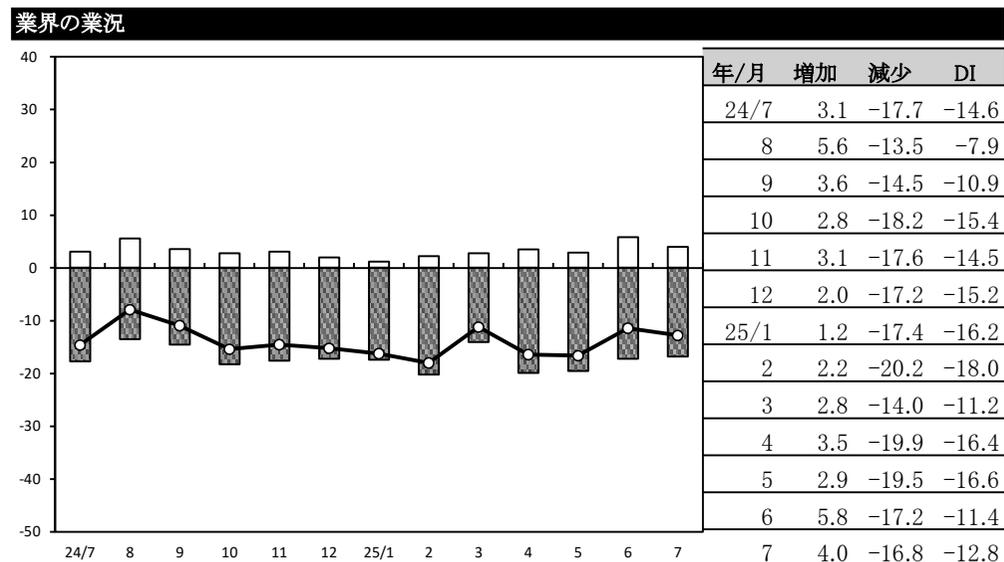
(年月)



(年月)

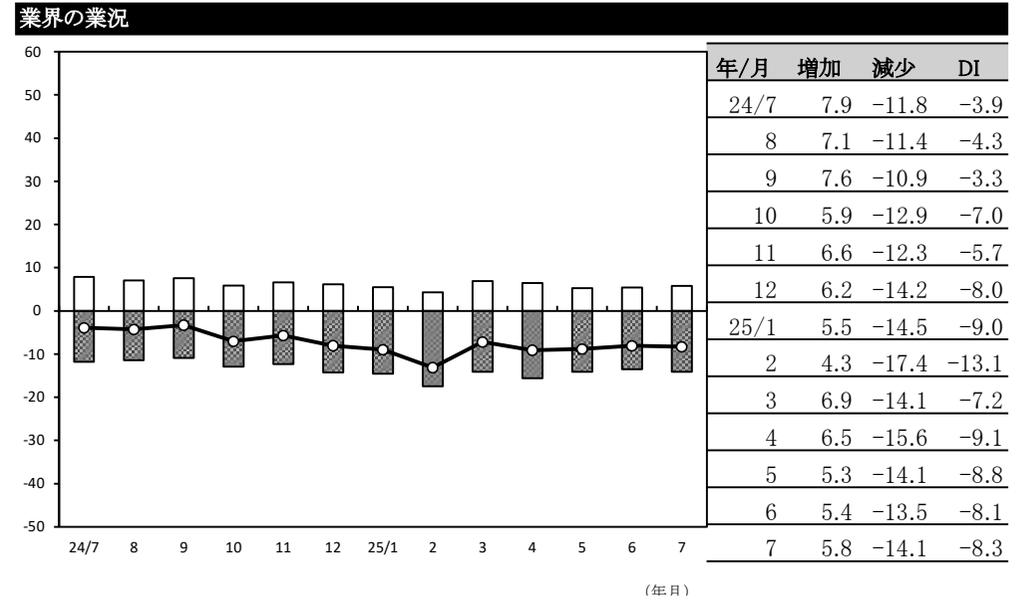
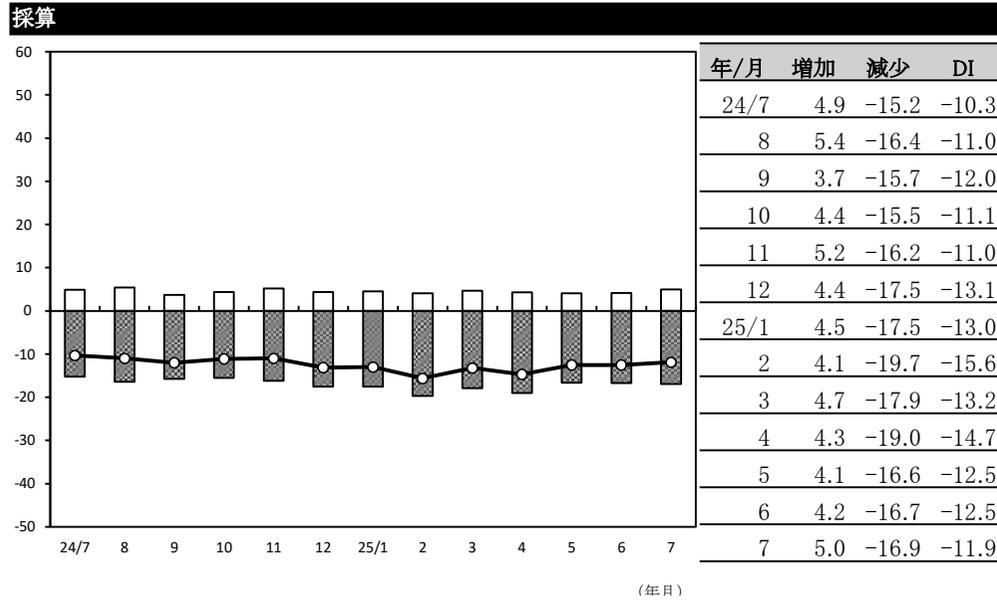
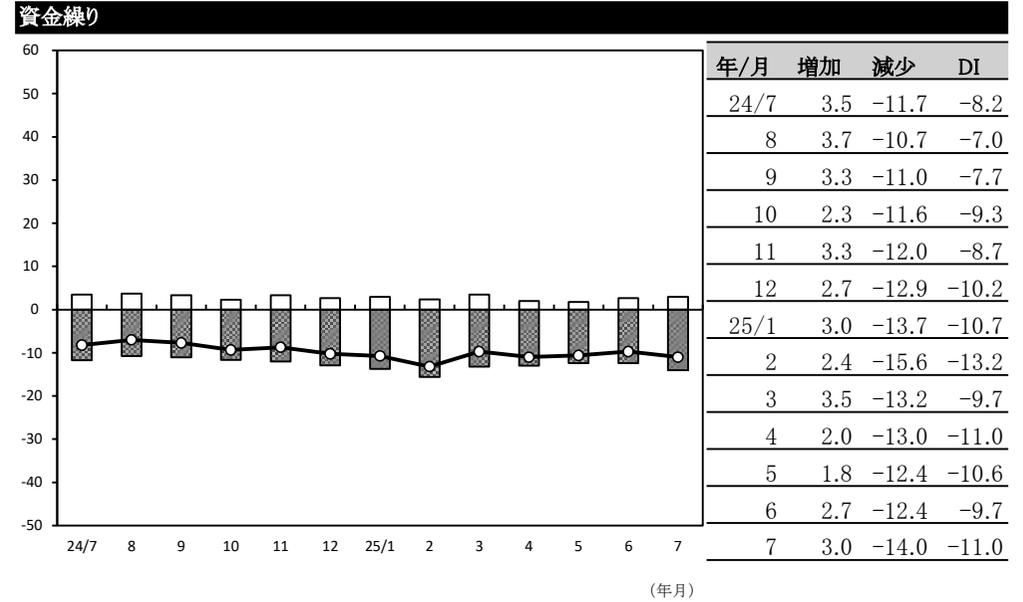
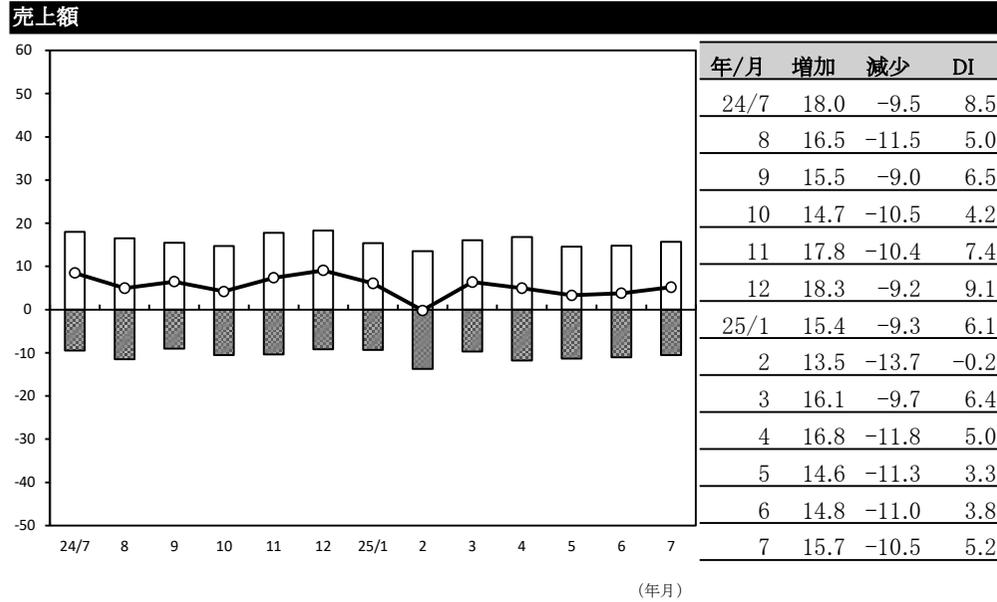


(年月)

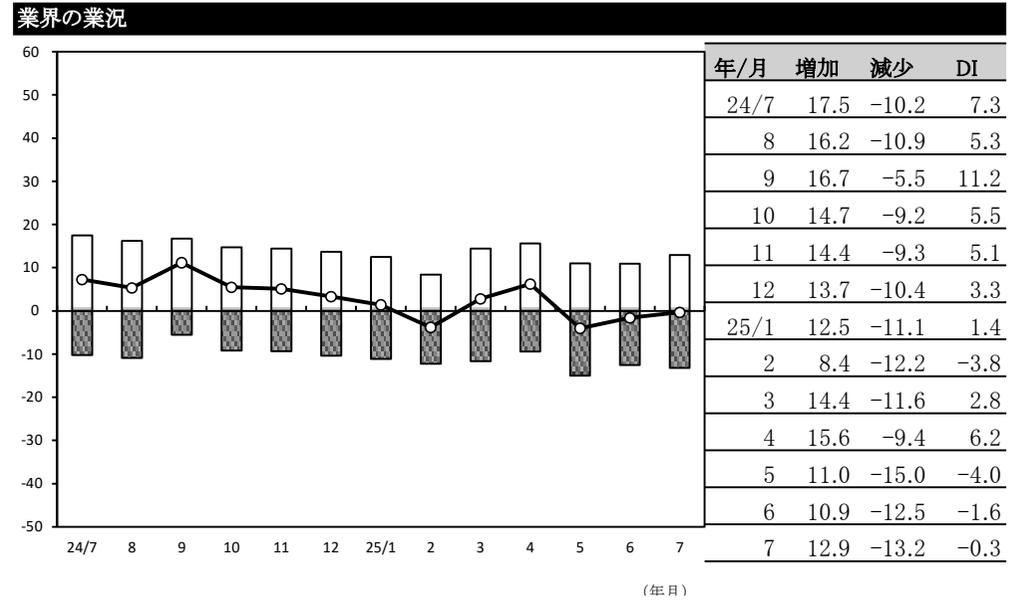
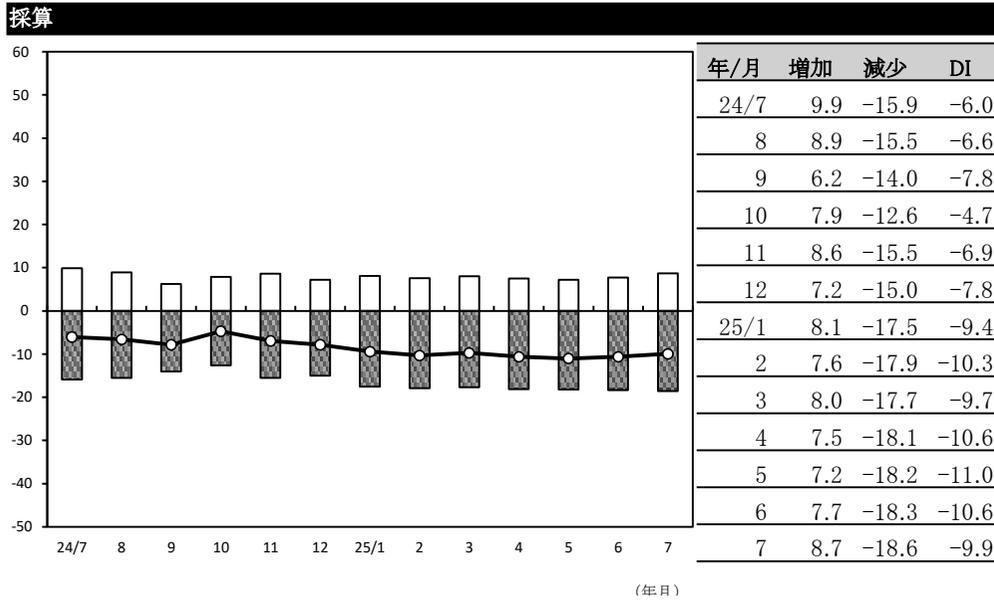
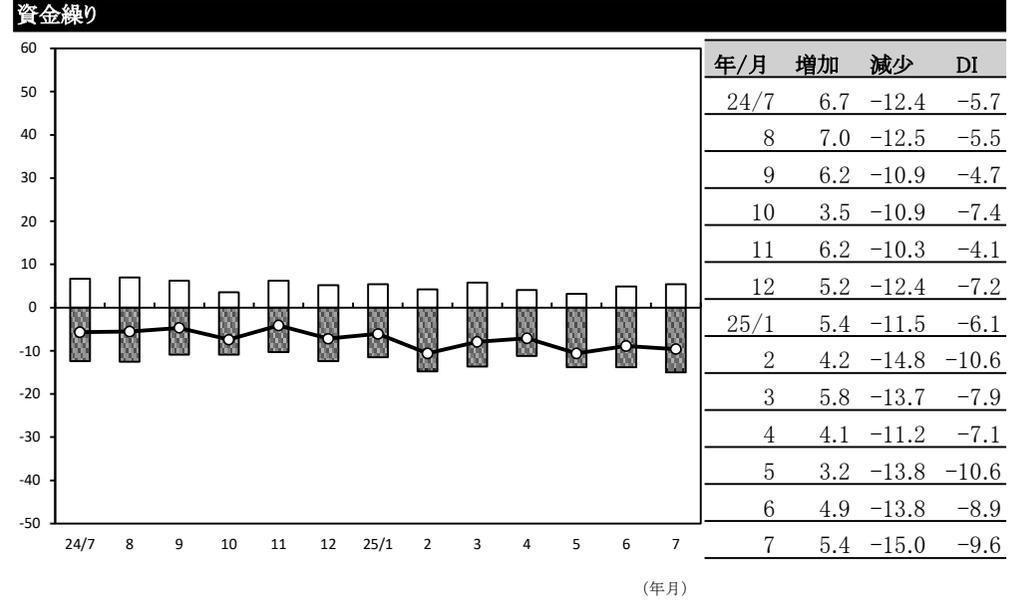
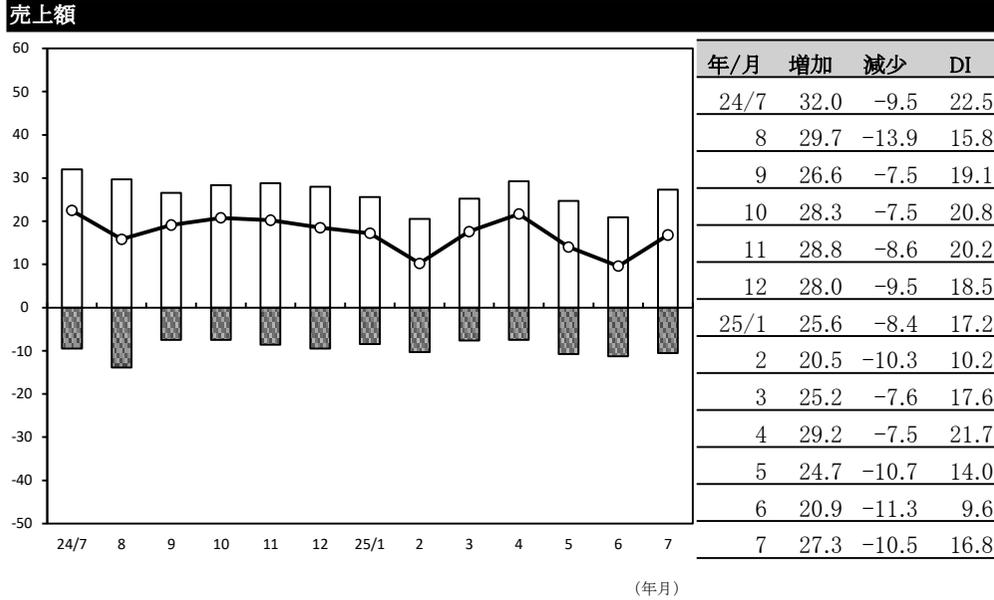


(年月)

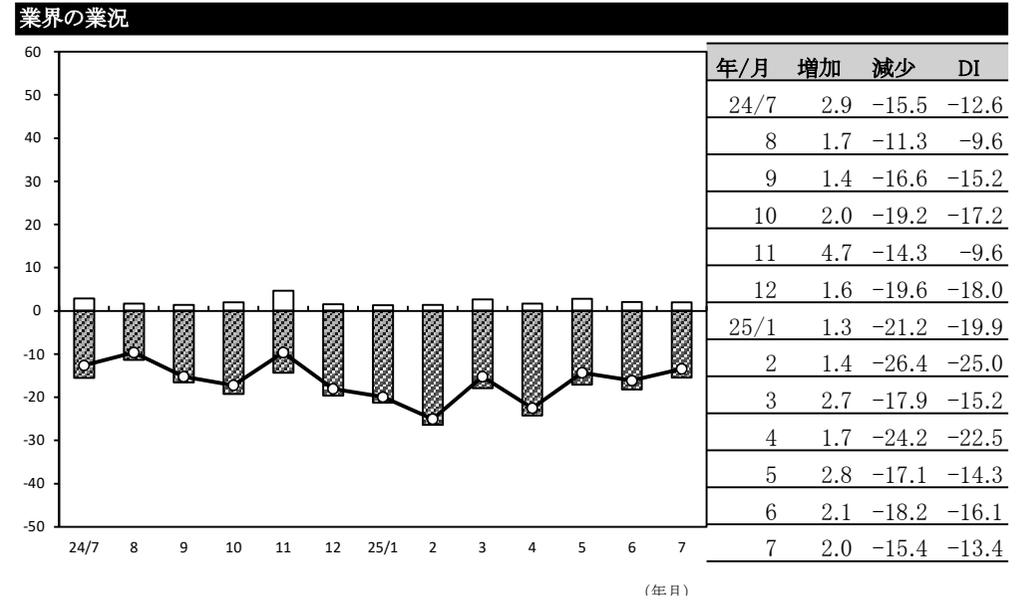
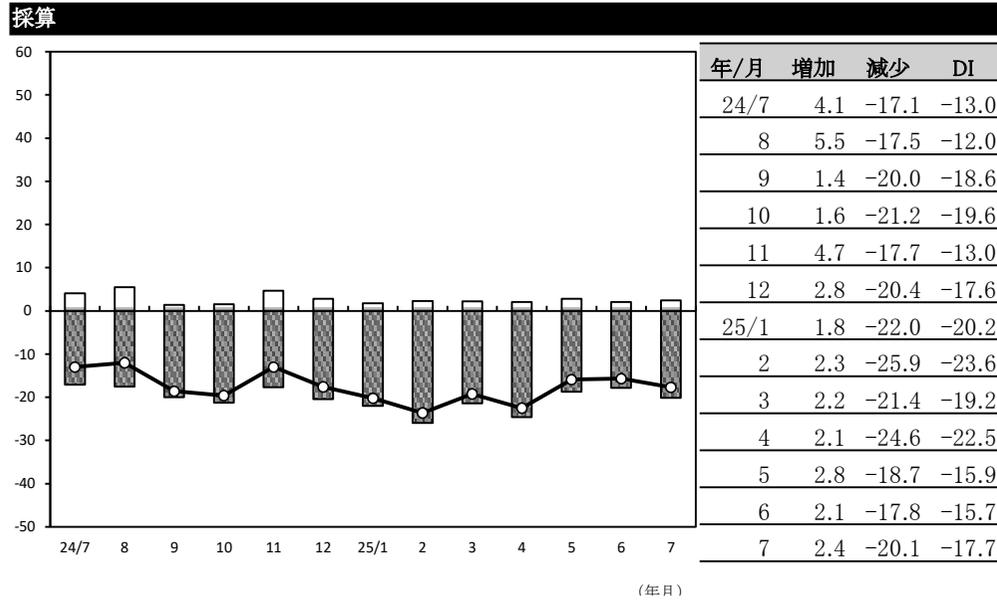
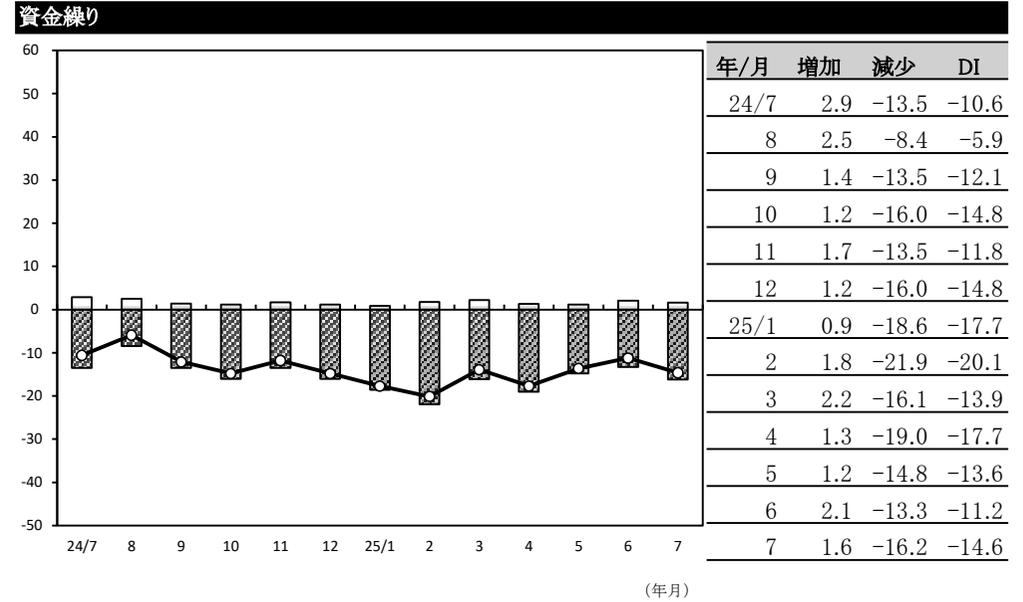
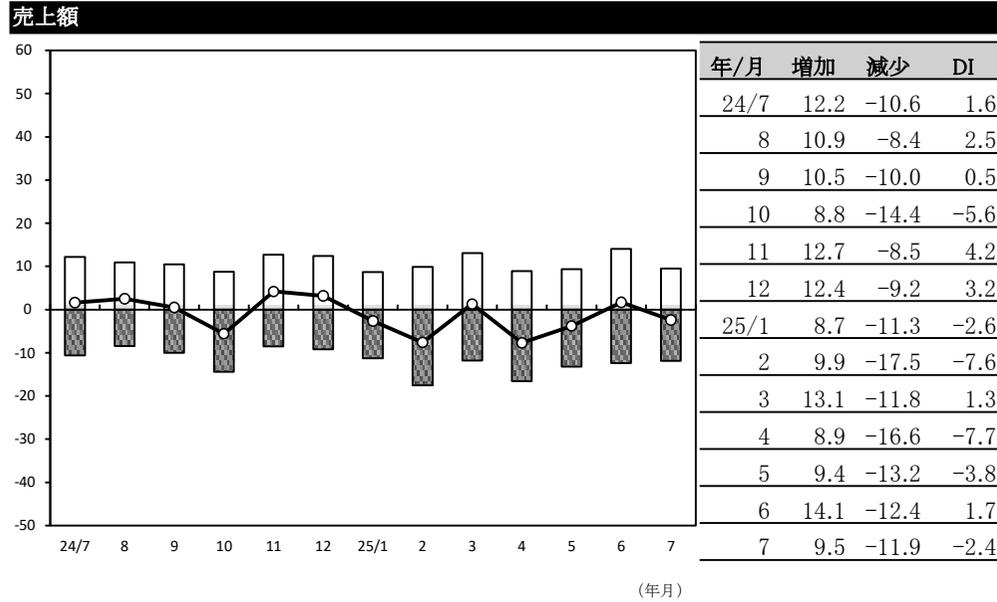
サービス業(前年同月比)



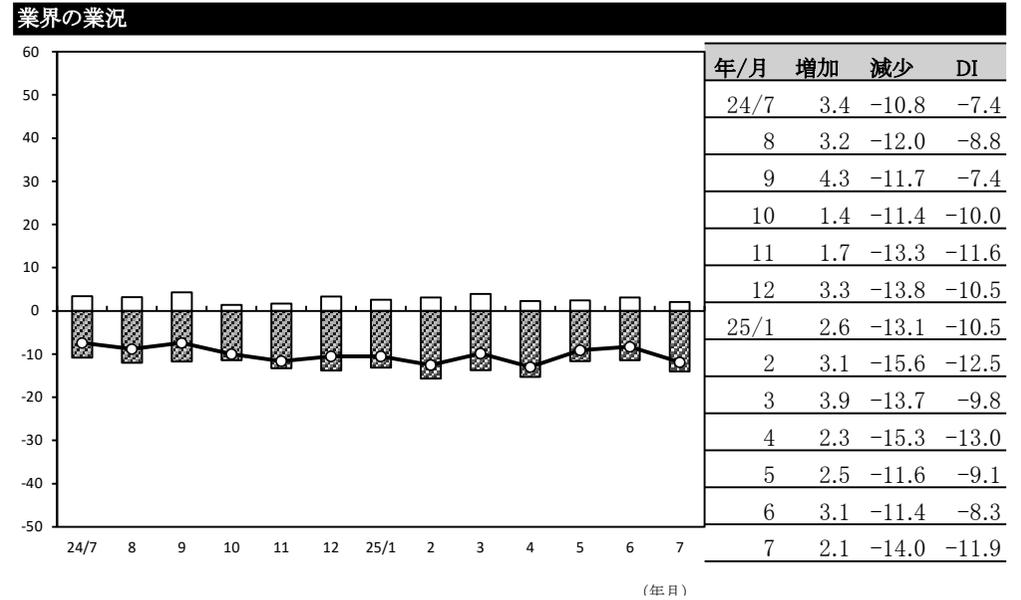
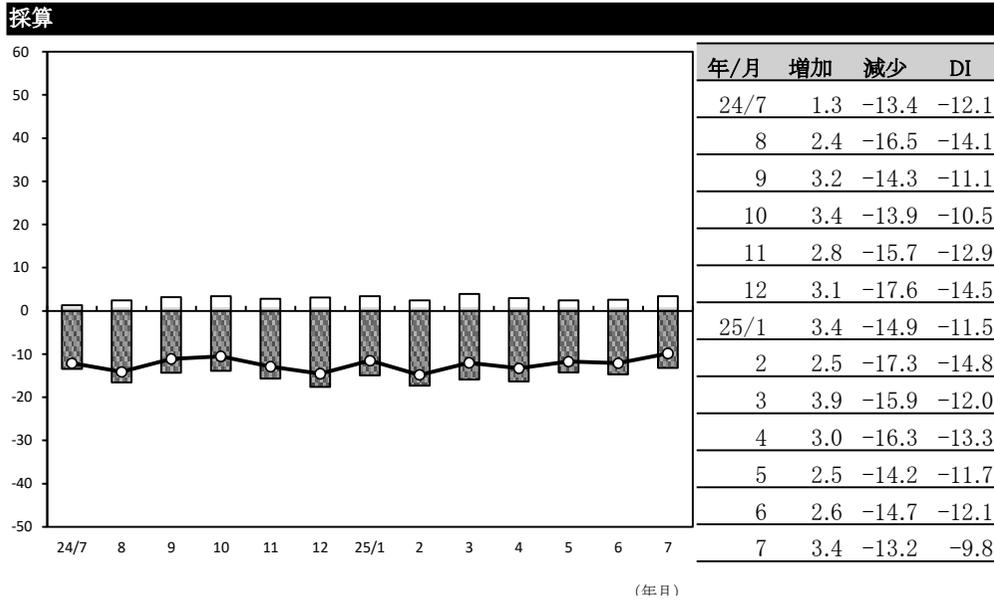
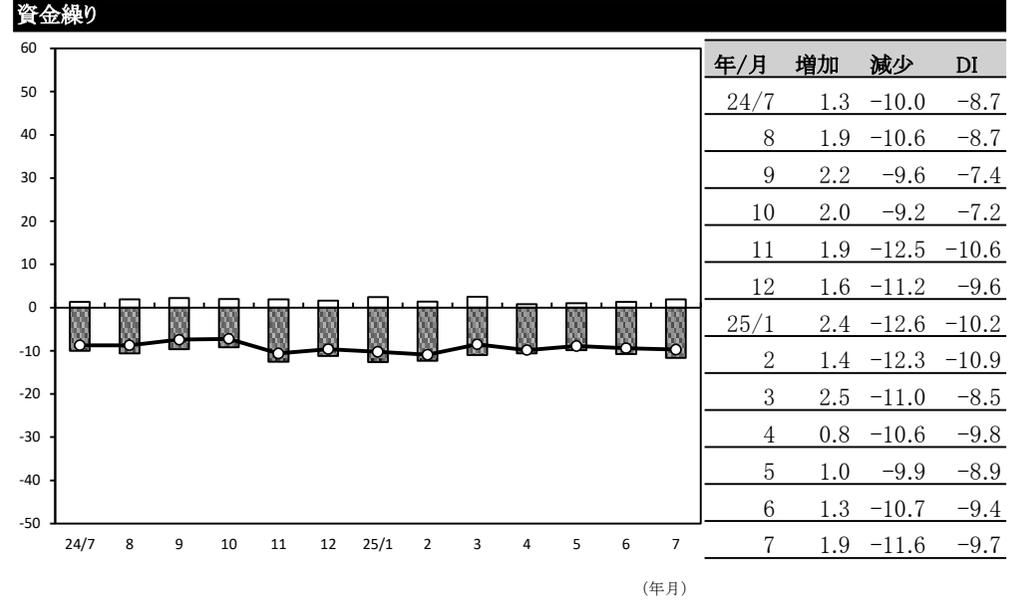
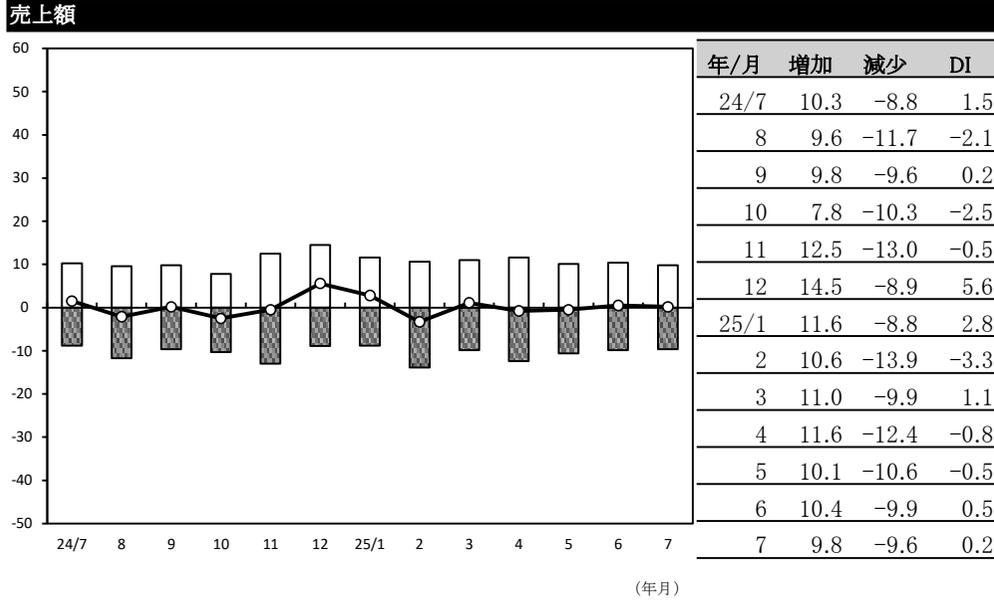
サービス業【旅館】（前年同月比）



サービス業【クリーニング】（前年同月比）



サービス業【理・美容】（前年同月比）



小規模企業景気動向調査(7月期)における商工会経営指導員の主なコメント

* コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

一般的に、前年比微増又は維持で推移。天候よく地区農業は順調のため関連3次産業も安定しているようだ。当地区は観光地では無いものの、道の駅等の入り込みは天候もよく増加傾向。

(北海道小平町商工会)

天気に恵まれたことにより、建設関連や観光関連、食料品関連は好況であった。今後地域イベントが続くため、地域の盛り上がりには天候が欠かせない。懸念としては人手不足であり、事業縮小を検討する事業者も少なからずいるため対策が必要である。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

今月ヒアリングを行った事業者は、いずれも業況が好調であり、景気回復傾向にあることが見受けられた。

(茨城県取手市商工会)

7月に入り梅雨明けも早く、夏休み需要が始まったため、観光業をはじめとして売上増加に繋がっている。

(山梨県北杜市商工会)

米国関税の合意が図られたことにより、景気の先行き不安が解消され今後の景気浮揚に期待したい。

(京都府木津川市商工会)

観光シーズンの始まりということもあり、毎月の売上に観光客の消費が上乘せされている業種が好意的な意見が多かった。

(長崎県新上五島町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

コスト面での負担に関するもののほかに、気温に係る消費動向への影響に関するコメントが多かった印象。これまでは、季節性の需要など比較的ポジティブなものが多かったが、利用頻度の低下や熱中症対策に関するコスト、冷房費用の負担など、メリットとデメリットの印象が一部業種で逆転しているコメントが聞かれた。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

農業の景気により、飲食店が影響を受ける。高温により、作物、果樹、米が不作だと、飲食店の景気が上がり、波及して建設業、その他事業にも影響する。今年度の米農家の影響は聞こえてこないが、サクランボ等果樹関係は先行き不透明であり、コロナか、物価高への対策企業にも回復に陰りが出てくる可能性有。

(山形県南陽市商工会)

値上げについては頭打ちの状態であると感じた。試算表を確認すると売上は増加しているが販売数は減少しているという結果となっている。消費者含め販売先も便乗値上げであることに気づきつつあるため、取引先の選定を行いつつある。今後は値上げだけでなく自社の付加価値向上に努めなければならないと感じる。

(埼玉県戸田市商工会)

観光業を中心に年間における地域経済の最盛期を迎えており、消費意欲はあると感じるものの、価格高騰、猛暑、中国経済の低迷等マイナス要因が相殺している感がある。佐渡が世界遺産登録に登録され1年が経過したところであるが、インバウンド需要の取り込みやオーバーツーリズムの取組みがより重要度を増すと思われる。

(新潟県寺泊町商工会)

景気全般としては、製造業・建設業・小売業・サービス業のいずれも、外需の鈍化や物価高騰の余波に直面しつつ、局所的な底堅さを見せる混在した状況にある。製造業は自動車関連の不正問題や原材料価格の高止まりで慎重姿勢が続く、建設業は法改正による審査長期化が新築着工の遅れと資金繰り不安を招く。小売業は生活必需品中心に底堅いが、価格破壊型ECの浸透で既存店舗は競争激化。サービス業では観光需要に支えられつつも、理美容や飲食は天候や物価の影響を受けやすい。外部環境に揺らぐ中で、各業種とも柔軟な戦略転換と付加価値創出が不可欠な局面となっている。

(岐阜県大垣市商工会)

多くの業種で売上は横ばいか微増を維持していますが、原材料費や人件費の高騰がそれを上回り、利益を圧迫する「利益なき繁忙」が蔓延しています。特に建設業や製造業では価格転嫁が追いつかず、小売・飲食業では物価高による消費マインドの冷え込みと人手不足が深刻な課題です。一部好調な業種も見られますが、全体としてはコスト構造の抜本的な見直しと生産性向上が急務と言える状況です。

(京都府福知山市商工会)

全体として、仕入単価や労務費の高騰が多くの業種で採算を圧迫しています。特に建設業では慢性的な人手不足が深刻な課題です。一方で、小売業やサービス業に目を向けると、ネット販売や修理需要を捉えて好調な企業がある反面、消費者の買い控えや価格競争で苦戦する企業も多く、業種・業態による景況感の二極化が鮮明になっています。

(鳥取県米子日吉津商工会)

全体として、持ち直し時期となっているが、原材料価格の高止まりや人手不足が全業種共通の課題であると考えている。また、適正な価格転嫁の難しさが収益構造に影響を与えており、経営環境は依然として厳しい局面が続いていると判断する。

(熊本県宇土市商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

昨年度から何度か値上げを行った結果、食料品製造業は業況がやや好転してきている。しかしこれは値上げをした結果であって販売数が増加しているわけではないため今後の売上増加は見込めない可能性がある。

(埼玉県戸田市商工会)

景況感に大きな変化はないが、この先の受注においてポジティブな声も聞こえる。

(富山県庄川町商工会)

猛暑によるエアコンの特需やアルコール消費の増加など季節需要が急拡大したほか、好調なインバウンド消費もプラス材料となっている。茶関連製造業で、インバウンド向けの抹茶ブームが起こっている様子。

(滋賀県甲賀市商工会)

機械金属製造業は、日米間の関税交渉合意を受け、それまでの不安や不透明感な部分が和らぎ、売上・採算ともに良好推移となった印象。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

機械部品加工関連の事業者は、TSMC関連工場の波及により受注がやや増加し、売上が回復傾向にある。今後も継続受注が期待されている。

(熊本県大津町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

原油の高騰・原材料等の価格等の高止まりの影響が続いている。給与体系や労働環境を変えようにも価格転嫁ができにくく、固定費の負担も大きくなれば、業界全体の人離れはこれからより進む傾向になるのを懸念。

(福島県田村町商工会)

食品製造関連の事業者は仕入単価(特に餅米)が高騰しており、支払い資金が足りないとき生活資金から捻出しているとのこと。縫製関連の事業者は、廃業などで下請け先が減少したためか、取引先が今年冬物分から単価の値上げにあっさり応じてくれたとのこと。

(栃木県那珂川町商工会)

仕入れ値は高騰傾向にあるが、売上は昨年同月比と比較して変化が見られない。天候が不安定であるため、食品の仕入れ値が高騰してはいるものの、加工した製品の値上げは昨年に行っている業者が多く、これ以上の値上げは消費者が離れてしまうという懸念があることから、値上げをしていないことから売上が変わっていない。今後も仕入れ値が高騰するようであれば再度値上げも視野に入れながら状況を見ていきたいという業者が多くみられた。

(三重県伊勢小俣町商工会)

食料品、繊維、金属製品など、分野によって濃淡はあるものの、総じて原材料費の高騰が利益を圧迫しています。特に繊維工業では、海外製品との競合や需要の停滞により厳しい状況が続いています。食料品製造業では、新たな販路開拓や商品開発で活路を見出そうとする動きも見られますが、コスト増を販売価格に十分に転嫁できていない事業者が多い印象です。

(京都府福知山市商工会)

受注は回復傾向にあるが、仕入単価・固定費の上昇に価格転嫁が追いついていないこともあり利幅が低下している。

(大阪府羽曳野市商工会)

食料品においては猛暑により、人の動きが悪く売上が上がらない。更に一部仕入れている材料が不足していることや、物価高も重なり、厳しい状況が続いている。繊維工業においては業界の問題として、人手不足がかなり深刻な状況。技能実習生の受入体制の整備によるマンパワー確保や、製造設備の更新(最新化)による生産性向上を図っている企業もある。機械金属においては、受注の動きが鈍く、今年いっぱい先行き不透明という声が多い。総受注が少なく会社全体の採算が良くないため、資金繰りも悪化傾向。今後の最賃上昇も含め、下請け・孫請け企業は価格交渉への不安が広がっている。

(鳥取県鳥取市西商工会)

金属部品製造業では、受注が減少しており、仕入単価も上がっていることから厳しい経営環境となっている。また、清酒製造業ではトランプ関税の影響により米国への輸出の先行きが見通せない状況となっていたが、15%で落ち着く見込みとなったことから、輸出事業の好転を期待している。

(岡山県阿哲商工会)

同業者の廃業により売上は増加しているものの、猛暑の影響で卵などの原材料の生産量が減少し、物価が高騰しています。最終消費者の消費マインドが物価高騰によって落ち込んでいるため、業況は思わしくありません。また、半導体関連の受注も引き続き低調な状況が続いています。

(福岡県みやま市商工会)

鹿児島県の離島地区であることから、台風8号により売上額に大きな影響を受けている。船便の欠航や抜港の影響により、食材等も届かないことで飲食店にも影響が出ている。さらに農産加工品の島外発送も滞り、売上額は減少。仕入単価や輸送費コストは増加しているため、採算としても悪化している。

(鹿児島県知名町商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

見積依頼や相談などは増加傾向、受注依頼も若干増えてきた。

(青森県今別町商工会)

土木工事業を営む事業者では、受注件数が増加傾向にあり、業績が堅調に推移している。外構工事業を営む事業者は、受注件数が増加傾向にあり、業績が堅調に推移している。

(茨城県取手市商工会)

新築工事は多くないが、ペンション、旅館、民泊用住宅等のリノベーション工事の引き合いが多い。人手不足の状況は慢性化している。

(新潟県妙高市商工会)

草刈の仕事が頻繁に入ってくる。暑さや豪雨、周辺住民の環境への意識の高まりなどの理由で、行政や地権者からの草刈りニーズは旺盛である。猛暑の影響や、事業者の高齢化により、広範囲なエリアの草刈りができる事業者はほとんどいないことから、秋までは毎年繁忙期だが、年々忙しくなってる気がする。

(静岡県吉田町商工会)

業況としては好転しています。9月より公共工事の受注もあり来年1月頃まで忙しい状況。また、以前取引のあった事業者より工事請負の打診があり、業界として引き合いは多い状況ですが人手不足で対応出来ない部分があります。

(沖縄県北中城村商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

工事受注は増加傾向にあるが、人手不足により外注費が増加している。また、依然として仕入価格や人件費の高騰により利益が圧迫されている。

(群馬県富士見商工会)

建設業に関しては、前回の調査時期と比較しても景況感はあまり大きな変動は感じられない。ただ、従業員・工員の人材・雇用確保については継続した悩みとしている。人材・雇用に繋がっても長く続かないこともあり、適切・適任が経営の保持・持続に繋がる。

(東京都清瀬商工会)

土木工事業者について、公共工事の受注が少しずつ動き出したが、前年に比べると発注そのものが少なく、売上は低調。さらに、仕入単価の著しい増加により、採算は悪化傾向。

(福井県福井東商工会)

前年同月より公共工事が減っていることが売上減少の要因である。今年も県最低賃金上がる見通しであり物価は相変わらず高騰しているため資金繰りが心配である。

(岐阜県古川町商工会)

公共工事の減少が業績に影響を及ぼしており、売上や採算の面で厳しさが見られる。今後は民間工事や個人からの案件にも柔軟に対応し、仕事の幅を広げる姿勢が求められている。全体としては停滞感が強い。

(兵庫県丹波市商工会)

夏季は猛暑による作業の遅れや受注の減少が発生し、資金繰りの悪化が予想される。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

電気工事業・リフォーム工事ともに仕入高騰の中新築需要が減少し、資金繰りが悪化している事業者もみられる。

(香川県高松市中央商工会)

復興関係の公共事業等で建設業は手持ち工事は安定している。建築業に関しては域内だけでなく遠方での仕事が増加している。

(愛媛県西予市商工会)

公共工事の発注が減少傾向にあり、さらに工事現場では熱中症対策が必須となり工期が遅れがちです。また、原材料費や人件費の高騰が続いていますが、そのコスト増を工事価格に転嫁するのが難しい状況です。

(福岡県みやま市商工会)

地区内の建設業者は、売上はやや増加～不変であるが、仕入単価は依然としてやや上昇。現状採算や資金繰りに困窮している先は少ないが、前向きな意見は少ない。

(佐賀県多久市商工会)

建設業においては、受注を確保し比較的安定した経営を維持している事業者がある一方で、受注契約に至らず売上が伸び悩んでいる事業者も見られ、業況にばらつきが出てきている。また、売上の不安定さを背景に、新たな雇用の確保を控えている事業者もある。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

建築資材、外注費の高騰などで利益率悪化。新築工事も減少。人手不足も顕著と業況は悪い。

(大分県中津市しもげ商工会)

原材料価格の上昇が続いている。慢性的人手不足、熟練技術者確保難が続いている。

(鹿児島県薩摩川内市商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

スーパーマーケット等小売関連の事業者は、気温の上昇と共に嬭恋村へ避暑に訪れるお客様(主に別荘地)が増加し、店舗は賑わいを見せている。

(群馬県嬭恋村商工会)

食料品小売業については、物価高騰の影響により米や卵の価格の高止まりが続いている。その一方季節野菜等については価格が安定してきている為、消費者はそれらを探し出して購入している。その為、客数等の減少は見られない。

(埼玉県東松山市商工会)

食品小売業関連の事業者は、祭りなどのイベントが開催されるようになり、祭り消費があった。

(石川県能登鹿北商工会 田鶴浜支所)

夏季の観光シーズンに入り、観光客の消費が多くなり、売上は増加傾向にある。仕入れ価格が落ち着けば、利益につながる。

(長崎県新上五島町商工会)

物価高騰による買い控えはあまり見られない。気温上昇の影響なのか扇風機やクーラー等の売上が増加している。

(沖縄県嘉手納町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

売上としては例年並みだが、経費の増加が大きい。年々気温が上がる時期も早くなっている影響もあり、対応等のコスト増が懸念される。また、一部(農業関連)で設備投資の気運が高まっているが、買い手のキャッシュ不足もあり、売り手の資金的体力も必要となるなど、複雑な状況である。他方、季節関連(エアコンなど)の必需品家電は好調。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

今月も商品アイテムの値上げ品目が多数発生し、家計を直撃することで消費者の買い控えも全体的に発生している。今月下旬からは、子供たちの夏休み期間に突入し、飲食料品を中心に他の月よりも多少消費は上向している状況。但し、夏休み期間の一過性に過ぎないと思われる。

(福島県会津美里町商工会)

飲料小売関連の事業者は夜営業飲食店の減少、猛暑での外出控え、物価高騰に影響を受けているとのこと。衣料品小売関連の事業者は仕入単価が上昇しており(糸の原価高騰が影響)高価格帯の商品が売れないため値上げが出来ないとのこと。二輪小売関連の事業者は少子化の影響で自転車が売れず、更に原付の生産中止も影響しているとのこと。

(栃木県那珂川町商工会)

物価高騰が止まらず、頻繁に値上げをしているが、生活必需品のため、需要は旺盛で、価格上昇分が売上高の増となっている。景況がよくなっているのかは懐疑的。

(千葉県白子町商工会)

夏物衣料が好調だったが、それでも昔と比較すると客数は減っており、相変わらず厳しい状況である(衣料品販売)

猛暑により食材全体の価格上昇が激しい。(肉屋)

猛暑の影響により夏物家電の売れ行きが好調。エアコンの修理や取り付け依頼も多くありがたい状況である(家電)

(静岡県森町商工会)

衣料品においては、記録的な猛暑の影響で店頭販売が苦戦し、衣料品の売れ残り在庫が増加傾向。ただし、UVカットや冷感、速乾性の猛暑対策商品の売れ筋は好調。食料品においては、例年より梅雨明けが早かったが、客足への影響は感じられない。物価高騰の影響や消費者の購買意欲も横ばいの印象を受けている。耐久消費財は、全体的に来店者数が少なかった印象が強く、連日の猛暑が影響していることが推測される。その半面、家電小売業においてはエアコン設置に関する問い合わせが多く、売上は確保できるが人手不足により失注も多いとの声がみられた。

(鳥取県鳥取市西商工会)

■猛暑の影響により野菜や果物、卵、乳製品の出荷量に影響が出てくるのではないかと。

■家電販売:エアコンの販売が好調。系列店の協力を得ながら取付作業を行っている。

(岡山県瀬戸内市商工会)

仕入の値上がりが増え続けている。お客様の事を考えると値上げには躊躇しますが、自社の事も考えると値上げせざるを得ない状況である。

(徳島県上勝町商工会)

食料品小売業において、仕入価格の急騰及び売上減少により7月末にて閉店の事業所あり。消費者は価格に敏感であり地区内外の大型量販店に購買力が流出している影響が非常に大きい。

(宮崎県国富町商工会)

観光客の増加により一部で売上が回復しているものの、物価高の影響で消費者の節約志向が強い。全体としては前年同月比で横ばいまたは微減の傾向にある。

(沖縄県金武町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

サービス業関連の事業者は、全体的に大きな変化は見られないが、宿泊業においては売上を伸ばしている。工事関係者や出張者の宿泊が要因である。

(北海道新ひだか町商工会)

宿泊施設に関しては旅行客は前月と比べ少しだけ増加したようにおもわれる。

(宮城県東松島市商工会)

旅館：自然体験やアウトドアへの関心が高まっていることもあり家族やグループ旅行が多い。客層は関東圏や宮城県から車で来る方が多くインバウンドも昨年比で倍以上の入込となっており構成比でも大きな割合を示している。

洗濯業：冬物の需要はまだ続いており売上は増加している。原材料は高止まりしている。価格転嫁を行っていない中で不足人員の補充を辛抱しながら採算をとっている状態。今後徐々に価格転嫁を行っていききたい。
理・美容：外気温が高い日が続くと髪を切る人が増える傾向にあるようで、その影響があらわれている。シャンプー等も物価高で仕入単価は上昇しているが、客足が伸びているため採算はとれている。

(秋田県由利本荘市商工会)

洗濯業においては、原価並びに諸経費上昇しているが、価格転嫁が進んでおり採算性は回復傾向にある。理美容業においては、夏季に入り需要増により売上増加。採算性が向上している。

(茨城県つくば市商工会)

宿泊関連の事業者は、グリーンシーズンは去年を上回る売上となりそう。ただ登山客が減少している傾向である。災害等により駐車場が閉鎖されている影響があるかもしれない。

(長野県小谷村商工会)

旅館・宿泊所は稼働率も高く、台風の影響でキャンセルなどもありましたが8割から9割の稼働率である。夏休みシーズンに入り、特に増加している。仕入単価や人件費コスト増加があるものの、価格転嫁も進んでいるため、採算をキープできている。採算も好転状況にある。

(鹿児島県知名町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

村内理美容業については域内人口減少の為、出張サービス等を行っていても売上確保が難しい状況にある、付加価値を向上させる新しい取組等を検討していきたい。

(青森県東通村商工会)

旅館：令和6年度についてコロナ禍前の8割程度の水準まで売上回復。しかし、山形新幹線の不具合により観光需要キャンセル等で回復基調に陰り。サクランボについて3年連続高温による不作で、更に例年より収穫時期が早まったことで時期の調整できず、需要減少。設備修繕も費用高騰し対応が困難である。従業員も高齢化で人手不足。省力化のための投資がカギだが、コロナ過で借入増加しており、資金調達力低下企業には痛手。

(山形県南陽市商工会)

美容業者について、猛暑のため店舗にかかる電気代が例年よりかさんでおり利益を圧迫している。

(福井県福井東商工会)

・旅館関連は、夏の繁忙期だが地震予言の影響で海外客を中心に観光客が減少。宿泊費を抑えたい観光客が多く、1泊朝食のみで夕食を外食・コンビニで済ませる人が増加傾向。

・洗濯関連：夏場で気温の高い日がおおかったため、外干しするものについては回転が良かった。

・理美容業：物価高騰による家計圧迫などが影響してか、来店頻度が減少傾向。客単価を上げようと、頭髮関係だけでなく、まつ毛やフェイシャルなど、サービス拡充を検討する事業所も見受けられる。

(鳥取県琴浦町商工会)

旅館・宿泊業は例年より宿泊客が大幅減。関西万博および7月5日大規模災害の噂が大きな要因と考えられるが、温暖化により街歩きや旅行を控える傾向にあるとの情報も得ている。

(島根県まつえ北商工会 八束支所)

旅館・宿泊所関連の事業者は、先月と比較して目立った変化はなく、食品の相次ぐ値上げ、エネルギー価格の高止まりや今後増加することなどにより、厳しい状況が続いている。洗濯業関連の事業者は、7月は冬物の衣替えも落ち着き、先月に比べ売上は減少していた。理美容業関連の事業者は、前月と比較すると売上はほぼ横ばい。3周年の記念としてチラシを作成し販促活動を行い、併せてyoutubeで動画を定期的にあげおり反響はあり新規顧客が増加した。今後も定期的な情報発信を行い集客に努めたい。

(岡山県みまさか商工会 勝央支所)

クリーニング業界では、しみ抜きなどの専門性の高いサービスに特化することで、新たな販路を開拓しています。また、キャッシュレス決済を導入することで、新規顧客の獲得につなげています。一方、消耗品については、新商品の発売に合わせて単価が上昇傾向にあります。

(福岡県みやま市商工会)

観光需要の回復や夏休み需要により、宿泊業はやや回復傾向。ただし、理美容業は物価上昇による光熱費や備品価格の上昇が収益を圧迫している。

(熊本県大津町商工会)